

3) 令和2年度歯科医師臨床研修 指導歯科医アンケート調査

(1) 調査の概要

本調査では、平成22年度及び平成28年度改訂版コアカリで変更または強調された教育項目が各大学の教育プログラムにどのように反映され、機能しているかを調査する目的で、歯科医師臨床研修を担当する指導歯科医に対して、研修歯科医の知識、技能、態度などの評価について調査する。また、今後のコアカリ改訂に資する研修現場からのニーズや意見をアンケートするものである。

現在、各大学の教育プログラムは平成22年度改訂版コアカリに準拠した改訂がなされ、平成30年3月以降に卒業した研修医がこの教育を受けていることは疑いもないが、平成28年度改訂版コアカリに準拠した改訂がすべての大学の教育プログラムに反映されているか、または、すべての研修歯科医が平成28年改訂版に準じて改訂された教育プログラムを受けているかどうかは不明である。そのため、本アンケートの質問に用いる多くの項目は平成22年度改訂版コアカリでの変更点などを基に作成しており、集計、整理した後、平成28年度改訂コアカリでの改訂の考え方や基本理念と照らし合わせて検討することとしている。

(2) 調査の方法

➤ 回答対象の時期および調査方法

これまでに指導した研修歯科医に対して、令和3年2月に調査を行った。

➤ 調査対象

歯科大学・歯学部の附属病院・附属診療所で、臨床研修に7年以上携わっている指導歯科医（各施設3名）と、これ以外の研修施設で臨床に7年以上携わっている指導歯科医 1名

➤ 調査方法

無記名式質問紙調査法。厚生労働省歯科医師臨床研修プログラム検索サイト（D-REIS: Electronic Information System for Dental Resident）に公開されている全国の単独あるいは管理型臨床研修施設に対してアンケート用紙を郵送して、分配、記載、収集、返送を依頼した。

特に各管理型施設の協力型研修施設に関しては、施設数等が把握できなかったため、管理型研修施設に一任した。

➤ 調査内容

1. 回答者所属
2. 回答者の年齢、研修指導経歴
3. 研修歯科医の受入れ経歴
4. コアカリの認知度と入手法
5. 平成22年度改訂版コアカリを学んだ学生の評価
6. 今後の卒前（歯学部）教育において強化した方が良いと思われる項目

(3) 調査から得られた結果

1) 回答者の人数と所属

回答にご協力いただいた指導歯科医は総数 291 名であった。うち、歯科大学・歯学部の附属病院や附属診療所に勤務の指導歯科医が 107 名 (36.8%)、医科大学・医学部の附属病院に勤務の指導歯科医が 37 名 (12.7%)、大学病院以外の病院に勤務の指導歯科医が 62 名 (21.3%)、歯科診療所に勤務の指導歯科医が 83 名 (28.5%) であった。【問 1 の結果より】

2) 回答者の年齢、研修指導経歴の分布

回答者の年齢分布は 50 歳代の 110 名 (37.8%) を中心に 40 歳代～60 歳代に全体の 89% (259 名) が集中していた。【問 2 (1) の結果より】

研修指導経歴も 11 年～15 年を中心に 6 年～20 年に全体の 67% (196 名) が集中していた。【問 2 (2) の結果より】

※アンケートは所属施設の種類の、回答者の年齢、研修指導経歴年数に関係なく集計した。

3) 研修医の受入れ経歴

平成 23 年から本年までの研修歯科医の受入れの有無について調査したところ、平成 23 年～平成 29 年の間に研修歯科医を受け入れた指導歯科医は 77 名、平成 30 年以降に研修歯科医を受け入れた指導歯科医は 61 名であり、これらのうち、平成 23 年～平成 29 年の間と平成 30 年以降の両方に研修歯科医を受け入れていた指導歯科医は 45 名であった。【問 3 の結果より】

※問 6、7 に限り、この 45 名の回答のみを使用した。

4) コアカリの認知度と入手法

回答にご協力いただいた指導歯科医におけるコアカリの認知度は高く、「良く知っている」、「ある程度知っている」を合わせると 217 名 (74.6%) に達していた。【問 4 の結果より】

また、コアカリを入手する経路として「所属先」あるいは「管理型研修施設」などから配布されているとの回答が 130 名 (44.7%) である一方、インターネットから入手しているとの回答が 106 名 (36.4%) からあり、能動的に入手して利用している指導歯科医も多いことが認められた。【問 5 の結果より】

5) 平成 22 年度改訂版コアカリを学んだ学生の評価

歯学部の全教育課程について、上記コアカリに準拠したプログラムで育成された研修歯科医 (平成 30 年 3 月以降に卒業) の能力を、上記コアカリで強調された「歯科医師として求められる基本的な資質」の 8 項目 (歯科医師としての職責、患者中心の視点、コミュニケーション能力、チーム医療、総合診断能力、地域医療、研究志向、自己研鑽) に基づく 7 項目 (①患者に対する責任感、②コミュニケーション能力、③医学的知識、④基本的な治療能力、⑤高齢者や要介護者への対応、⑥科学的・論理的思考、⑦課題探求・問題解決能力) に平成 28 年改訂版コアカリで「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」で追加された「医療の質と安全の管理」に基づく⑧標準予防策、⑨医療安全の 2 項目を加えた 9 項目が修得されているかを、「大いにそう思う」、「そう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の 5 段階で評価した。

評価者は、問3で平成29年以前の研修歯科医および、平成30年以降の研修歯科医の両方を受け入れた45名の指導歯科医【問3で抽出】とした。

近年（平成30年度以降）の研修歯科医では「大いにそう思う」または「そう思う」という肯定的な評価は①患者に対する責任感(43%)、③医学的知識(43%)、⑥科学的・論理的思考(41%)、⑧標準予防策(46%)で比較的身に付いている項目と評価された。逆に④基本的な治療能力(28%)、⑤高齢者、要介護者への対応(30%)、⑦課題探求・問題解決能力(31%)は評価が低かった。一方、平成29年以前の研修医と平成30年以降の研修医を比較してみると、③医学的知識、⑤高齢者や要介護者への対応、⑥科学的・論理的思考、⑧標準予防策の4項目で、（平成29年以前の研修歯科医に比べて）平成30年以降の研修歯科医が優位である評価を得た。逆に①患者に対する責任感、②コミュニケーション能力、④基本的な治療能力、⑦課題探求・問題解決能力、⑨医療安全の5項目は、評価が下がっていた。【問6の結果より】

この評価を行った45名の指導医に、平成30年以降の研修歯科医がそれ以前の研修歯科医に比べて優れている点を問うと、自由記載にて「良好な性格(素直、真面目等)」(4件)、「歯学知識」(5件)等が挙げられた。一方で、物足りない点として「自発的行動(含：学修)が不足している」、「基本的診療能力の不足」が指摘されていた。ただし、この評価について、「年度の差よりは個人の資質」(12件)と多くの回答があり、歯科大学・歯学部で指導歯科医など、毎年多くの研修歯科医を受け入れている施設の指導歯科医でないと、比較は困難であったかもしれない。しかしながら、いずれの項目でも「大いにそう思う」、「そう思う」を合わせた肯定的な評価が50%に満たなかったことは明らかであった。【問7の結果より】

6) 今後の卒前(歯学部)教育において強化した方が良いと思われる項目

コアカリ改訂に求められる項目を探るために、学習者評価+指導歯科医の評価WGで検討した14項目から3項目選択してもらう方式でアンケートしたところ、「診断能力」、「臨床推論」、「基本的臨床技能」の3項目、続いて「治療計画立案能力」、「全身管理」の2項目の計5項目が多くの支持を得た。【問8の結果より】

さらに自由記載では、卒前教育に必要な項目として医療倫理教育(11件)、基本的臨床技能(11件)、医学的知識(10件)、一口腔単位での総合的な診断能力(9件)などが見られた。【問9の結果より】

(4) コアカリ改訂に向けての提言

歯科医師臨床研修指導歯科医からのアンケートによって、卒直後の臨床研修歯科医に備わっている能力、不足している能力、さらには臨床研修の現場のニーズや意見を得た。

現在の研修歯科医の有する「歯科に関する知識」の向上は、多くの意見から明らかであると考えられる。しかしながら、継続的かつ大きな課題として、診療参加型臨床実習の質的、量的不足を指摘する意見は多く見られた。

この中で、臨床研修の現場のニーズとして必要な「基本的な治療技能」だけを研鑽するだけでなく、一本の歯(または、ある臓器)の疾患を診て単なる推理的に診断を下すのではなく、一口腔単位で口腔内を評価して、疾患発現の原因やプロセス、悪化因子となるリスクを抽出して、「総合治療計画の立案」に繋げる教育や、「診療録の記載」なども卒前教育にある程度含めて欲しいという意見も

散見された。これは平成 28 年度改訂版コアカリの改訂の概要でも強調された（１）縦のつながりや（４）診療参加型臨床実習の充実とも一致しており、引き続き、コアカリ～共用試験（CBT, OSCE）～診療参加型臨床実習～臨床実習終了時臨床能力評価（Post-CC PX）～国家試験～臨床研修～日本歯科医師会生涯研修というシームレスな連携が可能なように検討すべきと考えられた。

また、問 6 の結果が示すように、平成 28 年改訂版コアカリで「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」で示された 9 項目の修得は未だ十分でないため、次期コアカリ改訂においても引き続き強調される必要があると考えられた。

さらに、医療倫理教育および医療プロフェッショナリズム教育、加えてコミュニケーション教育の強化を望む意見も見られた。本調査問 6 で見られた修得度の低さや、自由記載における臨床研修医の自発的な行動や学修の習慣を求めるいくつかの意見とも合わせて、研修現場からのニーズとして要検討項目ではないかと考えられた。これら、医療倫理、医療プロフェッショナリズム、コミュニケーション等については平成 28 年度改訂版の改訂概要（３）「歯科医師として求められる基本的な資質・能力の実質化」においても指摘されており、「実質化」を考えると E 臨床歯学、F シミュレーション実習、G 臨床実習等の中でも項目建てが検討されるべきと考えられる。

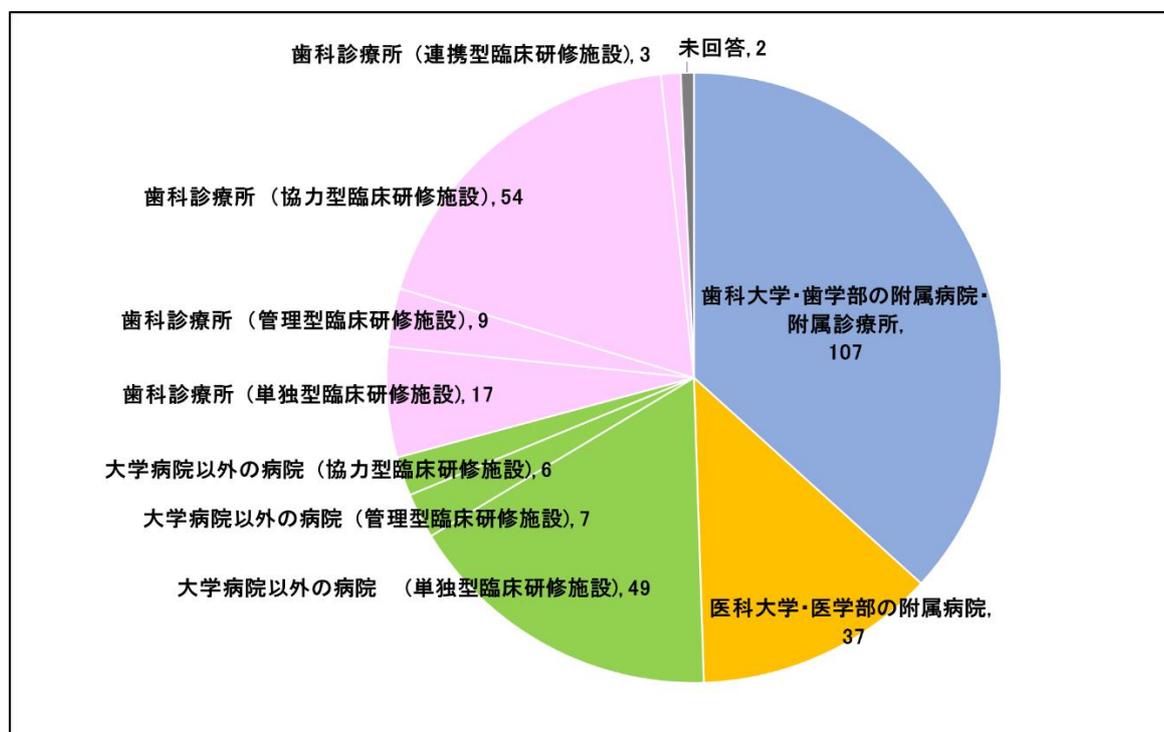
さらに、超高齢社会のニーズとして、高齢者を含む要配慮者に対して歯科医療を提供するために、「医学的知識」のさらなる強化も求められており、平成 28 年度改訂版の改訂の概要で示された（２）横のつながりや（５）超高齢社会への対応に一致していると感じられた。

最後に、量的には決して多くはないが、外国語での医療提供に応じられることや、EBM に基づいての臨床判断の実践、臨床研究の重要性など歯科医学の将来に資する重要な項目を指摘する意見も、すでに平成 28 年度改訂版の主眼である「多様なニーズに対応できる」の具体的な方向性として示されているが、研修指導の現場から挙げられたことは注目すべきことである。

以上、平成 22 年度改訂版コアカリにおける変更点を中心にした項目の到達度（修得度）を調査したところ、多くの項目が現在も進捗途上にあることが明らかになった。問題点として抽出された項目はいずれも平成 28 年度改訂版の改訂の概要でも取り上げられている項目でもあるが、臨床研修現場の指導医からも強化が必要とのニーズが一致している点からも継続的に強調されるべき項目であると考えられる。しかしながら、本調査でその問題解決の進捗状況（学修者の修得度）には差異があることが示されたため、次期改訂にあたっては重要度と緊急性も考慮した上で個々に適切な記載がなされることが望まれる。

➤ 結果

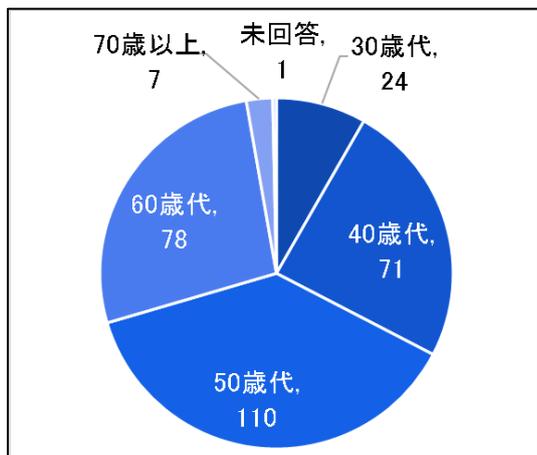
問1 貴施設は以下のどれにあたりますか。



回答内容	回答数	%
歯科大学・歯学部の附属病院・附属診療所	107	36.8%
医科大学・医学部の附属病院	37	12.7%
大学病院以外の病院（単独型臨床研修施設）	49	16.8%
大学病院以外の病院（管理型臨床研修施設）	7	2.4%
大学病院以外の病院（協力型臨床研修施設）	6	2.1%
歯科診療所（単独型臨床研修施設）	17	5.8%
歯科診療所（管理型臨床研修施設）	9	3.1%
歯科診療所（協力型臨床研修施設）	54	18.6%
歯科診療所（連携型臨床研修施設）	3	1.0%
未回答	2	0.7%
合計	291	100.0%

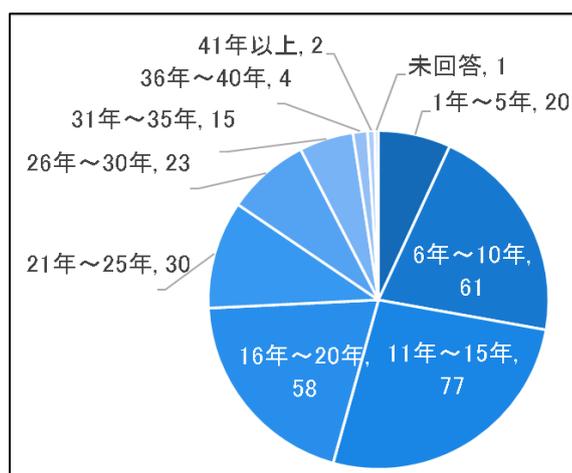
問2 アンケート回答者であるあなたに関する以下の質問にお答えください。

(1) 年齢は以下のどれにあたりますか。



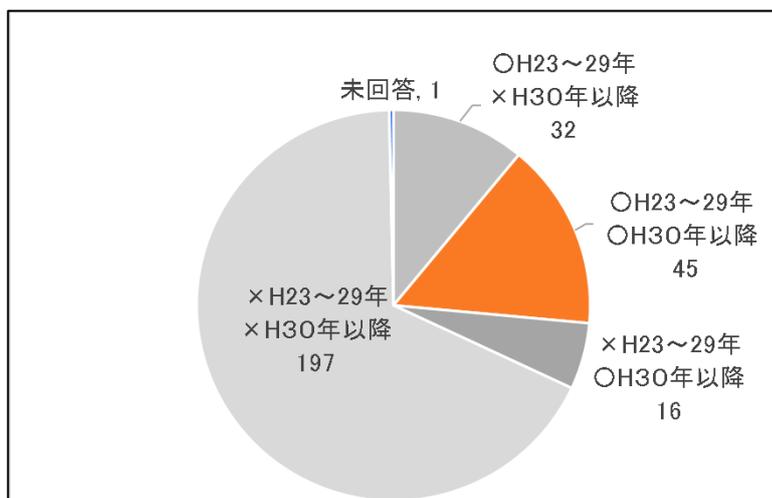
年齢	人数	%
30歳代	24	8.2%
40歳代	71	24.4%
50歳代	110	37.8%
60歳代	78	26.8%
70歳以上	7	2.4%
未回答	1	0.3%
合計	291	100.0%

(2) 指導経験年数は



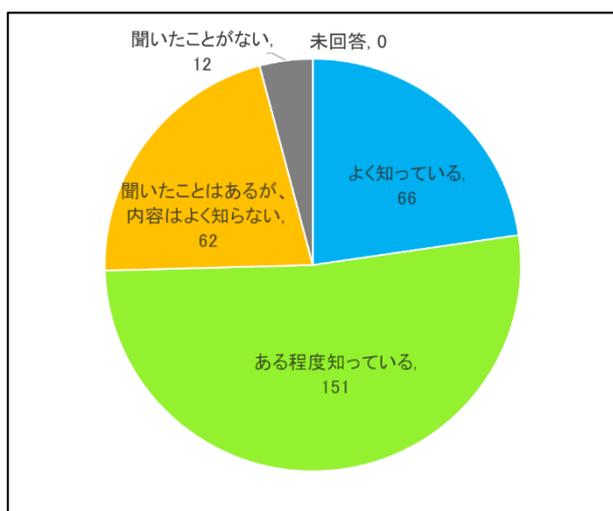
経験年数	人数	%
1年～5年	20	7%
6年～10年	61	21%
11年～15年	77	26%
16年～20年	58	20%
21年～25年	30	10%
26年～30年	23	8%
31年～35年	15	5%
36年～40年	4	1%
41年以上	2	1%
未回答	1	0%
合計	291	100%

問3 貴施設の研修歯科医の受け入れ状況について



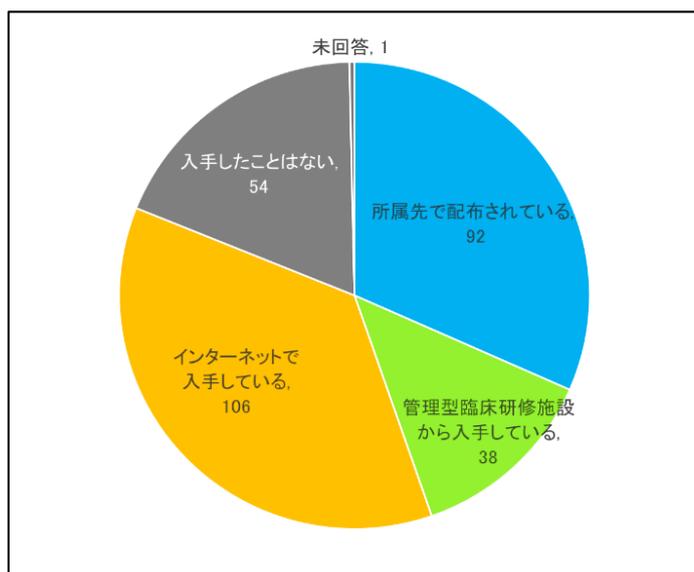
回答内容	人数	%
平成 23～29 年度の期間のみに研修医を担当した指導医	32	11%
平成 23～29 年度、および平成30年度以降の期間の両方で研修医を担当した指導医	45	15%
平成30年度以降の期間のみに研修医を担当した指導医	16	5%
研修医を担当していない指導医	197	68%
未回答	1	0%
合計	291	100%

問4 あなたは、歯学教育モデル・コア・カリキュラムを知っていますか。



回答内容	人数	%
よく知っている	66	22.7%
ある程度知っている	151	51.9%
聞いたことはあるが、内容はよく知らない	62	21.3%
聞いたことがない	12	4.1%
未回答	0	0.0%
合計	291	100.0%

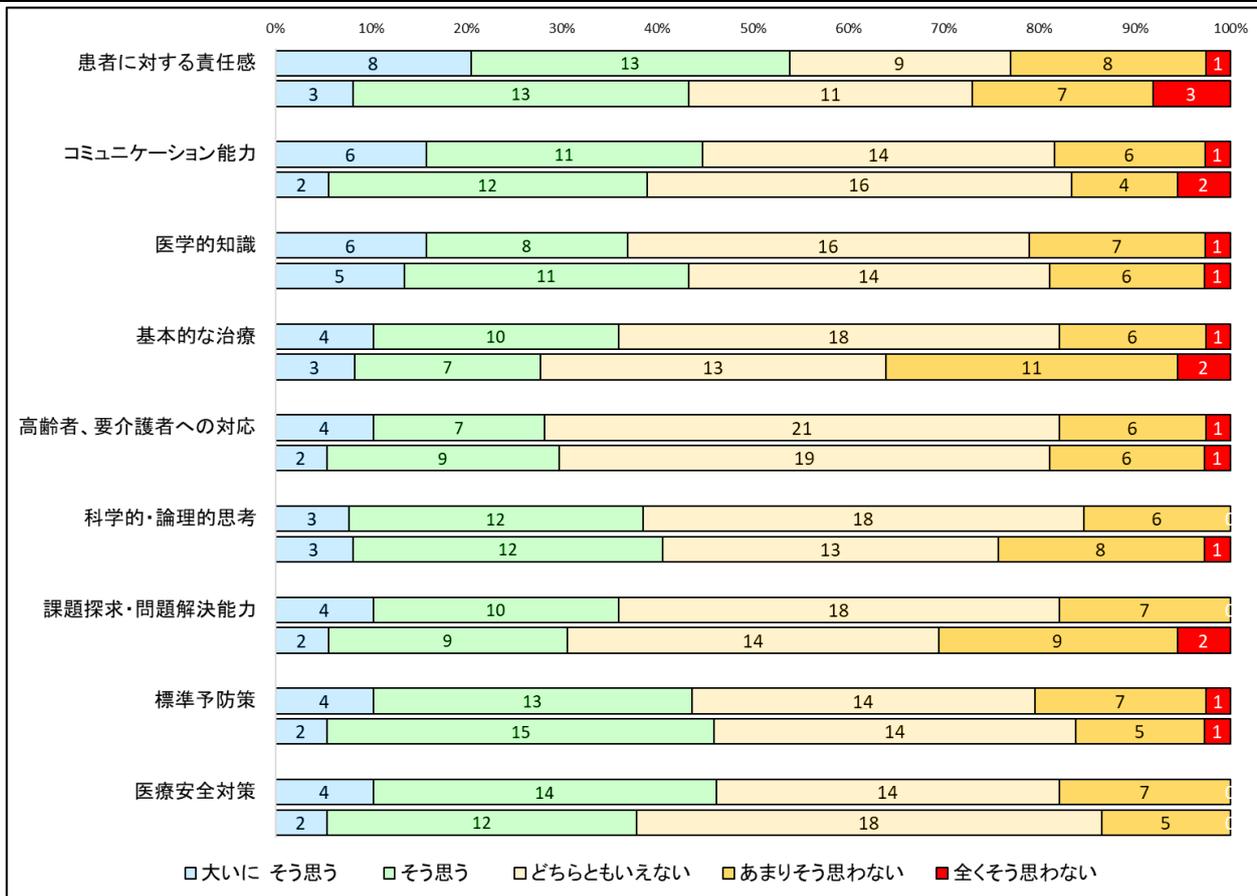
問5 あなたは、歯学教育モデル・コア・カリキュラムをどのように入手していますか。



回答内容	回答数	%
所属先で配布されている	92	31.6%
管理型臨床研修施設から入手している	38	13.1%
インターネットで入手している	106	36.4%
入手したことはない	54	18.6%
未回答	1	0.3%
合計	291	100.0%

問6 平成29年(2017年)度以前に入職した研修歯科医と、平成30年(2018年)度以降に入職した研修歯科医の以下の9項目に関する「研修開始時点での能力」を以下の評価クライテリアを基準に5段階で評価して、下記の表の回答欄の当てはまる数値に○をつけて下さい。
 ※厳密に平成30年度の前後ではなく、その時期あたりを対象とした趨勢の変化をお答えください。

問3で「平成23～29年度、および平成30年度以降の期間の両方で研修医を担当した指導医」45名の評価を使用。



回答内容		大いに 思う	そう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
患者に対する責任感	平成29年以前	8	13	9	8	1
	平成30年以降	3	13	11	7	3
コミュニケーション能力	平成29年以前	6	11	14	6	1
	平成30年以降	2	12	16	4	2
医学的知識	平成29年以前	6	8	16	7	1
	平成30年以降	5	11	14	6	1
基本的な治療	平成29年以前	4	10	18	6	1
	平成30年以降	3	7	13	11	2
高齢者、要介護者への対応	平成29年以前	4	7	21	6	1
	平成30年以降	2	9	19	6	1
科学的・論理的思考	平成29年以前	3	12	18	6	0
	平成30年以降	3	12	13	8	1
課題探求・問題解決能力	平成29年以前	4	10	18	7	0
	平成30年以降	2	9	14	9	2
標準予防策	平成29年以前	4	13	14	7	1
	平成30年以降	2	15	14	5	1
医療安全対策	平成29年以前	4	14	14	7	0
	平成30年以降	2	12	18	5	0

問7 平成30年度以降の研修歯科医について、それ以前の研修歯科医に比べて優れている点、物足りない点など、お気づきのことがありましたらお書き下さい。(自由記載)

問3で「平成23～29年度、および平成30年度以降の期間の両方で研修医を担当した指導医」45名の評価を使用。

(1) 優れている点

	回答内容	回答数
	良好な性格(素直、まじめ等)	4
	歯学的知識	5
	デジタルへの対応	1
	電子カルテの操作	1
	高齢者歯科医療の重要性に認識	1
	医療コミュニケーション	2
	感染対策	2
	基本的臨床能力	1
	年度の差よりは個人の資質	2
	その他	4
	なし	3

(2) 物足りない点

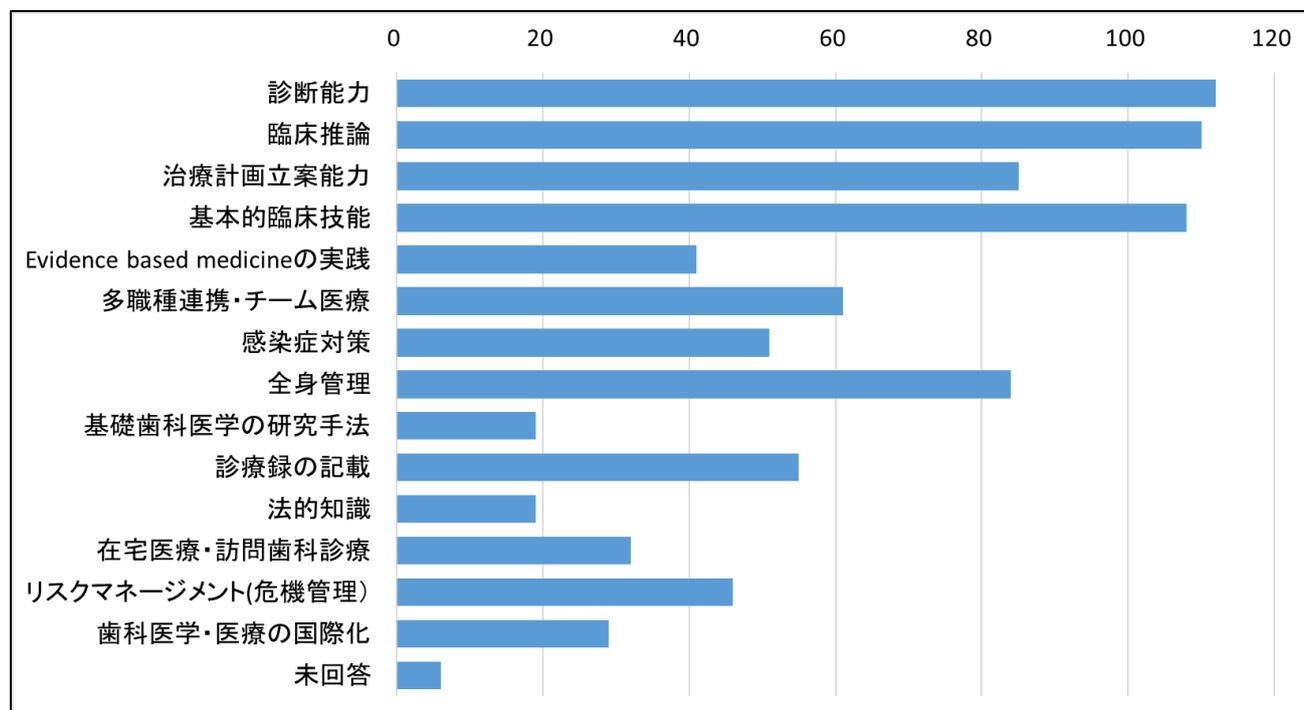
	回答内容	回答数
	自発的行動(含:学修)が不足	7
	コミュニケーション能力が不足	1
	医学的知識の不足	1
	解剖学的知識が不足	1
	基本的診療能力の不足	7
	応用力が不足	1
	学術活動への興味が不足	1
	なし	4

(3) その他のコメント

	回答内容	回答数
	研修医の待遇(労働時間等)が煩雑	1
	研修に対する意欲の不足	1
	自発的行動(含:学修)が不足	1
	診療は丁寧	1
	卒業校による教育の格差	1
	年度の差よりは個人の資質	12
	その他	4
	なし	3

問8 今後の卒前(歯学部)教育において、強化した方がいいと思われる項目を以下から選んでください。(記入欄に3つまで○を入れてください)

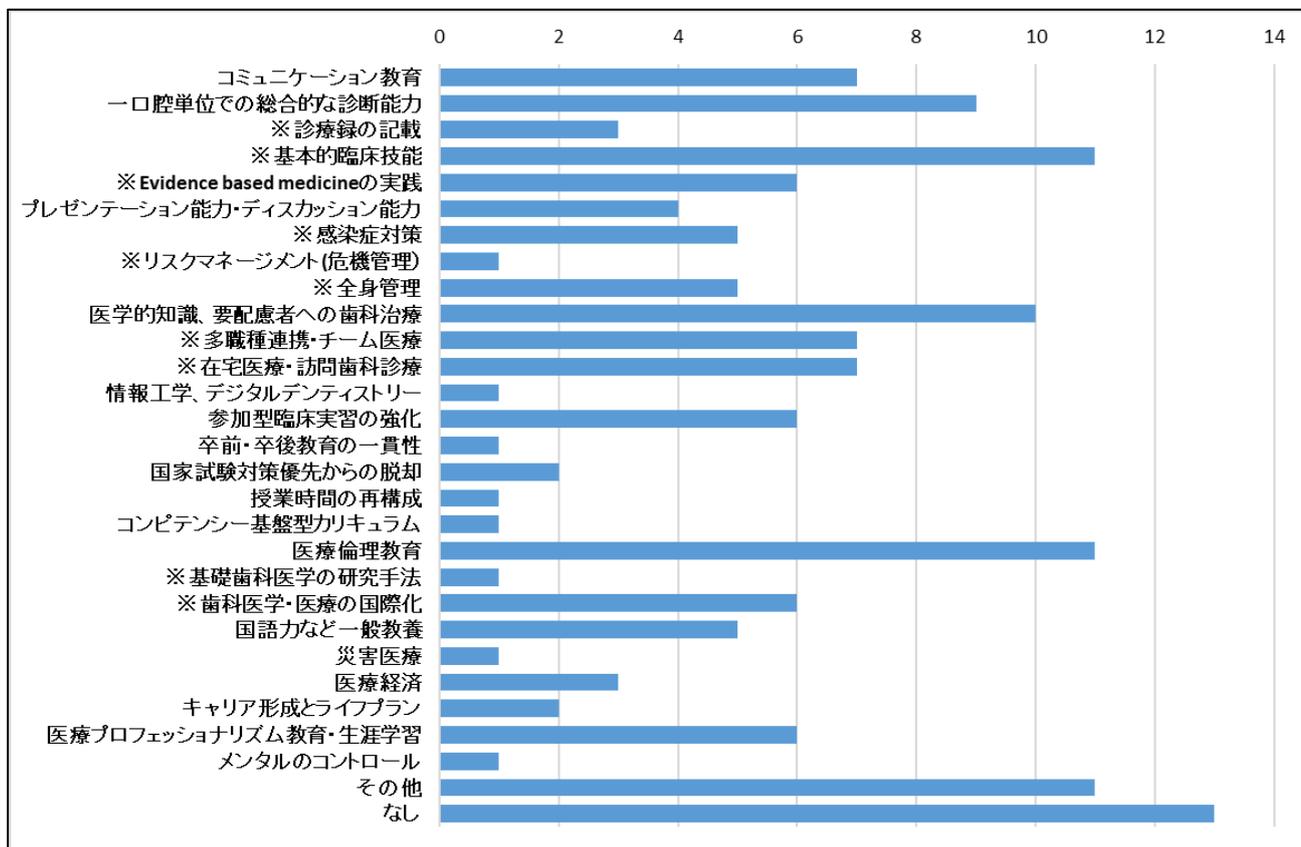
※は当該項目の発展例として臨床研修、生涯学修における内容なども含みます。問8、問9は平成22年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムに拘らずにお答えください。



回答内容	回答数	%
診断能力	112	13.1%
臨床推論	110	12.8%
治療計画立案能力	85	9.9%
基本的臨床技能	108	12.6%
Evidence based medicine の実践	41	4.8%
多職種連携・チーム医療	61	7.1%
感染症対策	51	5.9%
全身管理	84	9.8%
基礎歯科医学の研究手法	19	2.2%
診療録の記載	55	6.4%
法的知識	19	2.2%
在宅医療・訪問歯科診療	32	3.7%
リスクマネジメント(危機管理)	46	5.4%
歯科医学・医療の国際化	29	3.4%
未回答	6	0.7%
合計	858	100.0%

問9 今後の歯科医療の変化を考慮して卒前(歯学部)教育に導入または強化した方が良い(医療専門職としての倫理感・基本的態度や生涯学習などの態度項目を含めた)学修項目や卒前(歯学部)教育へのご要望がありましたら自由にお書きください。

※印は問8で選択肢とした項目と重複



回答内容	回答数
コミュニケーション教育	7
一口腔単位での総合的な診断能力	9
※診療録の記載	3
※基本的臨床技能	11
※Evidence based medicine の実践	6
プレゼンテーション能力・ディスカッション能力	4
※感染症対策	5
※リスクマネジメント(危機管理)	1
※全身管理	5
医学的知識、要配慮者への歯科治療	10
※多職種連携・チーム医療	7
※在宅医療・訪問歯科診療	7
情報工学、デジタルデンティストリー	1
参加型臨床実習の強化	6
卒前・卒後教育の一貫性	1
国家試験対策優先からの脱却	2
授業時間の再構成	1
コンピテンシー基盤型カリキュラム	1
医療倫理教育	11
※基礎歯科医学の研究手法	1
※歯科医学・医療の国際化	6
国語力など一般教養	5
災害医療	1
医療経済	3
キャリア形成とライフプラン	2
医療プロフェッショナリズム教育・生涯学習	6
メンタルのコントロール	1
その他	11
なし	13
合計	147

4) 令和 2 年度歯科医師臨床研修 修了者アンケート調査

(1) 調査の概要

本調査では、平成 22 年度及び平成 28 年度改訂版コアカリで変更または強調された教育項目が各大学の教育プログラムにどのように反映され、機能しているかを調査する目的で、令和 2 年度の歯科医師臨床研修を修了する研修歯科医に対して、卒直後に自分自身の身に付いていた知識、技能、態度などについてアンケート調査する。

また、1 年間の臨床研修を経験した立場から、今後のコアカリ改訂に資する項目や内容についての研修現場のニーズや意見をあわせてアンケートするものである。

現在、各大学の教育プログラムは平成 22 年度版コアカリに準拠した改訂がなされ、平成 30 年 3 月以降に卒業した研修医がこの教育を受けていることは疑いもないが、平成 28 年度改訂版コアカリに準拠した改訂がすべての大学の教育プログラムに反映されているか、または、すべての研修医が平成 28 年改訂版に準じて改訂された教育プログラムを受けているかどうかは不明である。そのため、本アンケートの質問に用いる多くの項目は平成 22 年度改訂版コアカリでの変更点などを基に作成しており、集計、整理した後、平成 28 年度改訂版コアカリでの改訂の考え方や基本理念と照らし合わせて検討することとしている。

(2) 調査の方法

➤ 回答対象の時期および調査方法

卒業時のコアカリの学修項目の修得状況について、令和 3 年 2 月に調査を行った。

➤ 調査対象

令和 3 年 3 月末までに歯科医師臨床研修を修了するすべての臨床研修歯科医師

➤ 調査方法

厚生労働省歯科医師臨床研修プログラム検索サイト(D-REIS: Electronic Information System for Dental Resident)に公開されている全国の単独あるいは管理型臨床研修施設に対して定員分のアンケート用紙を郵送して、分配、記載、収集、返送を依頼した。

➤ 調査内容

1. 回答者の卒業大学
2. 回答者の卒業時期
3. 卒業校の診療参加型臨床実習の充実度の評価
4. 平成 22 年度改訂版コアカリで変更された課題の自己評価
5. 卒業大学の卒前(歯学部)教育についての意見
6. 平成 22 年度改訂版コアカリで強調された28課題の修得の自己評価
7. 今後の卒前(歯学部)教育において強化した方が良いと思われる項目

(3) 調査から得られた結果と提言

1) 回答者の人数と卒業大学

回答にご協力いただいた研修歯科医は総数 1,216 名であった。内訳は、国公立大学・歯学部の卒業生が 329 名(27.1%)、私立大学・歯学部卒業生が 883 名(72.6%)、認定及び予備試験合格者 2 名(0.2%)であった。【問1の結果より】

2) 回答者の卒業時期

①平成 29 年 3 月以前に卒業した者(以降「平成 29 年以前群」という)は 86 名(7.1%)、②平成 30 年 3 月以降に卒業した者(以降「平成 30 年以降群」という)は 1127 名(92.7%)であった。【問2の結果より】

※②「平成 30 年以降群」は、歯学部教育全過程を平成 22 年度改訂版コアカリに準じた教育プログラムで学んだ学生であり、以降のいくつかのアンケート項目では、①「平成 29 年以前群」(これ以前の教育プログラムで学んだ学生)との差異を検討する目的で、別グループとして集計し、比較解析を行った。

3) 卒業校の診療参加型臨床実習の充実度の評価

「平成 30 年以降群」、「平成 29 年以前群」ともに診療参加型臨床実習に関して、「充実していた」と「やや充実していた」を合わせた約 70%の研修医が充実を実感していた。逆に「全く充実していなかった」と「あまり充実していなかった」を合わせても 10%に満たなかった。【問3の結果より】

4) 平成 22 年度改訂版コアカリで変更された課題の自己評価

平成 22 年度改訂版コアカリで強調された「歯科医師として求められる基本的な資質」の 8 項目(歯科医師としての職責、患者中心の視点、コミュニケーション能力、チーム医療、総合診断能力、地域医療、研究志向、自己研鑽)に基づく 7 項目(①患者に対する責任感、②コミュニケーション能力、③医学的知識、④基本的な治療能力、⑤高齢者や要介護者への対応、⑥科学的・論理的思考、⑦課題探求・問題解決能力)に平成 28 年改訂版コアカリで「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」で追加された“医療の質と安全の管理”に基づく⑧標準予防策、⑨医療安全の 2 項目を加えた 9 項目が修得できたかどうかを、「大いにそう思う」、「そう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」の 5 段階で自己評価してもらった。

平成 30 年度以降群の研修歯科医では「大いにそう思う」または「そう思う」という肯定的な評価は、①患者に対する責任感(67%)、②コミュニケーション能力(61%)、⑧標準予防策(69%)、⑨医療安全(66%)の 4 課題で 60%以上が卒業時に修得できていたと認識していた。逆に⑤高齢者、要介護者への対応の修得は(38%)では自己評価が最も低かった。

また、③医学的知識(45%)、④基本的な治療能力(43%)、⑥科学的・論理的思考(43%)、⑦課題探求・問題解決能力(47%)の 4 課題についても修得できていたと認識している者が 50%以下にとどまった。一方、平成 29 年以前群との比較では、①患者に対する責任感、②コミュニケーション能力、④基本的な治療能力、⑦課題探求・問題解決能力、⑧標準予防策、⑨医療安全の 6 項目で平成 30 年以降群の方が高い自己評価が見られた。【問4の結果より】

なお、この問いは指導歯科医アンケートと同一項目になっている。指導歯科医の評価では①患者に対する責任感、②コミュニケーション能力、⑧標準予防策の 3 課題が研修開始時にある程度修得できていると

の評価であり、研修歯科医の自己評価(①、②、⑧、⑨)と概ね整合していた。

5) 卒業大学の卒前(歯学部)教育についての意見

自由記載で、卒業大学の卒前(歯学部)教育について、「良かった点」、「物足りなかった点」、「その他コメント」に分けて意見を収集した。

「良かった点」については、29 年以前群と 30 年以降群をあわせて 494 名が回答したが、このうち約 1/3 の 166 名が診療参加型臨床実習の質的あるいは量的な充実を記載していた。さらに、見学や介助であっても臨床実習による知識習得の充実を記載した 58 名、実習担当教員の良好な指導を記載した 53 名を加えると、277 名(56%)の卒業生が臨床実習の充実を出身校の卒前(歯学部)教育の「良かった点」として実感しているようであった。

逆に「物足りなかった点」として、診療参加型の臨床実習が充実していなかったと回答した者が 150 名(35%)、国家試験や共用試験対策の講義が不足と回答した者が 21 名(5%)、類似しているがプログラム全体の時間配分が不適切と感じている者が 24 名(6%)いることが明らかになった。

また、人数は決して多くないが、医療面接、診察、診断、総合治療計画立案という治療開始時の基本技能に関する教育が不足している者が少なくない。

さらに、評価についての不満も多くみられ、特に臨床実習の修了要件や進級要件などが不透明であるとの訴えも 10 名見られた。

人数が少なくても、有用と思われる項目は可能な限り一覧表に残した。【問5の結果より】

6) 平成 22 年度改訂版コアカリで強調された28課題の修得の自己評価

平成 22 年度改訂版コアカリで強調された項目は以下である。

これらの項目が修得できているかを確認するために、右下のように各課題を設定した。

(1) 歯科医師として必要な臨床能力の確保

- 診断～治療計画 ①
- 診察技能 ②
- エックス線検査技能 ③
- 患者への配慮 ④

(2) 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

1. 医学・医療との連携、口腔と全身の関わり

- 内科的疾患 ⑤
- 妊娠 ⑥
- 周術期口腔ケア ⑦

2. 高齢者や全身疾患を有する患者等への対応

- 高齢者口腔ケア ⑧
- 口腔機能と介護 ⑨
- 口腔機能管理 ⑩
- 摂食嚥下リハビリテーション ⑪
- 障害者の歯科治療 ⑫

- 要介護者の歯科治療 ⑬
- 3. 予防歯学
 - 歯周病と禁煙指導 ⑭
 - ライフステージと食育 ⑮
- 4. 社会歯学(地域医療と社会制度・環境) ⑯
- (3) 未来の歯科医療を拓く研究者の養成
 - 1. 科学的・論理的思考の修得 ⑰
 - 2. 基礎研究や臨床研究を実施する ⑱
- (4) 多様な社会的ニーズへの対応
 - 1. 歯科医師として普遍的に求められる資質の観点 (①、②、③、④)
 - 2. 医療安全(患者および医療従事者の安全性確保)の観点
 - 院内感染 ⑲
 - 薬剤の副作用と薬害 ⑳
 - 医療現場の安全 ㉑
 - 放射線管理 ㉒
- 3. 患者中心のチーム医療(医療分野における多職種連携)の観点
 - 患者中心の視点 ㉓
 - チーム医療 ㉔
- 4. その他
 - 大規模災害時の個人識別 ㉕
 - 大規模災害時の歯科医療 ㉖
 - 小児虐待 ㉗
 - 男女共同参画 ㉘

これら項目に対する自己評価において、平成 30 年以降群では「技能・態度を実践できる」と「要点を熟知している」を高評価とすると、①(50%)、③(53%)、④(55%)、㉓(50%)などの項目で高い自己評価が見られた。

【問6の結果より】

同様にこれら 28 項目について自験または介助、見学を経験できる1～3の合計を教育プログラムが準備されていたと評価すると、概ねすべての項目について 80%以上の学生が十分な教育プログラムが用意されていたと回答した。若干準備が遅れていた項目は⑥(77%)、⑮(77%)、⑯(79%)、㉖(78%)であった。【問 7 の結果より】

さらにこれらの課題の有用性を確認したところ、概ねすべての項目で 65%以上から「非常に重要である」と評価されていた。65%に若干届かなかった項目は、⑫(64%)、⑮(60%)、⑯(62%)、⑱(62%)、㉕(59%)、㉖(61%)であった。【問8の結果より】

7) 今後の卒前(歯学部)教育において強化した方が良いと思われる項目

コアカリ改訂に求められる項目を探るために、研修グループチームで検討した 14 項目から 3 項目選択してもらう方式でアンケートしたところ、「診断能力」、「治療計画立案能力」の 2 項目、続いて「臨床推論」、「基本的臨床技能」の 2 項目が多く支持を得た。これは指導医の結果とも一致しており、指導医はこれにさら

に「全身管理」を加えていた。【問9の結果より】

さらに自由記載では、診療参加型臨床実習の充実(34件)が強く推奨され、次に診療録(22件)、次には一口腔単位での総合的な診断能力(20件)、一口腔単位での治療計画の立案(18件)などが挙げられていた。

【問10の結果より】

(4)コアカリ改訂に向けての提言

歯科医師臨床研修を修了した研修歯科医のアンケートによって、卒直後に修得できている臨床能力、不足している能力、そしてこれらを修得するための教育プログラムが準備されているかなどの情報を得た。

研修歯科医が、研修開始時に修得できていたと自己評価した能力は、指導歯科医の評価とほぼ一致しており、①患者に対する責任感、②コミュニケーション能力、⑧標準予防策、⑨医療安全などであることが解かった。

一方、研修歯科医は1年間の実地研修と学修を経た時点のアンケートでもあるため、「一口腔単位での臨床診断」や「一口腔単位での総合治療計画立案」、さらに「診療録の記載」など実務的な課題の必要性を実感し、これらを卒前(歯学部)教育である程度修得しておくべきと考えていることも示唆された。

研修歯科医の多く(問5の結果から56%)は、診療参加型臨床実習の実習内容が良好であると評価していたが、逆に35%の研修歯科医は診療参加型臨床実習が不十分であったと考えており、意見が完全に分かれるところであった。

具体的には、基本技能としての医療面接、診察、診断、総合治療計画立案、診療録のなどの教育が不足していると指摘した者が少なくない。

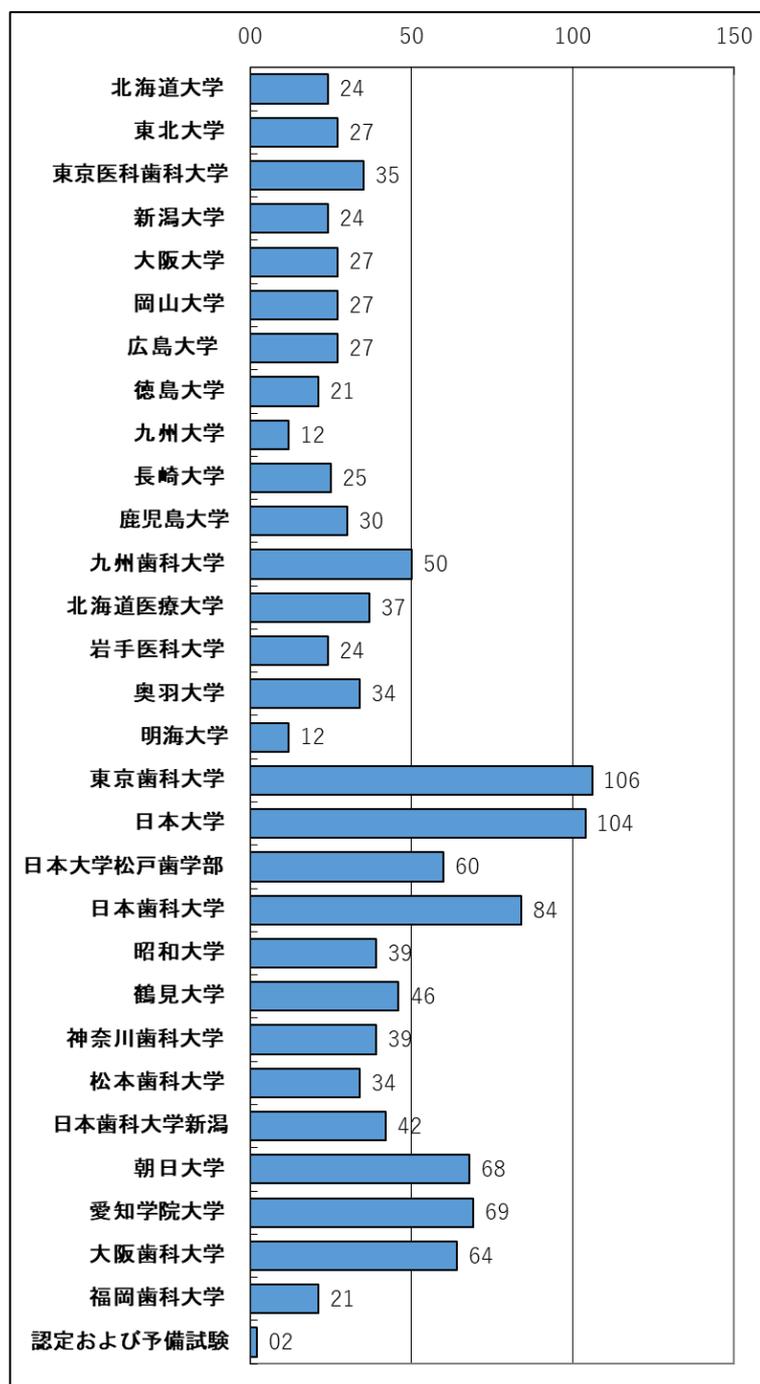
さらに、臨床実習の修了要件や進級要件など評価が不透明であることを指摘する意見も見られたのは、評価基準の明確な臨床実習終了時臨床能力技能評価(Post-CC PX)のトライアルを受験した学年であることも関係しているかもしれない。平成28年度改訂版の(8)「目標の整理」の項でも指摘されているが、方略や評価についての指針を示すことも各大学の教育プログラム作成にあたっては有用かもしれない。

また、これも少数ではあるが、特殊治療(自費治療・先進医療など)の見学機会がないという意見も見られた。医学教育コアカリでは今回の改訂において汎用されている先進医療に関しては遅滞なく学修項目に加えるよう検討するようであり、歯科でもいくつかの治療法を新規導入する検討対象として考えるべきと思われる。

最後に、少数意見ではあるが、キャリアデザインや医療英語、医療経済などを、歯科医学としての将来に資する重要な項目として指摘する意見も見られた。これらも平成28年度改訂版でも多様なキャリアパスの形成として指摘されている事項でもあり、緊急度は低いが高重要度の高い項目であると考えられる。

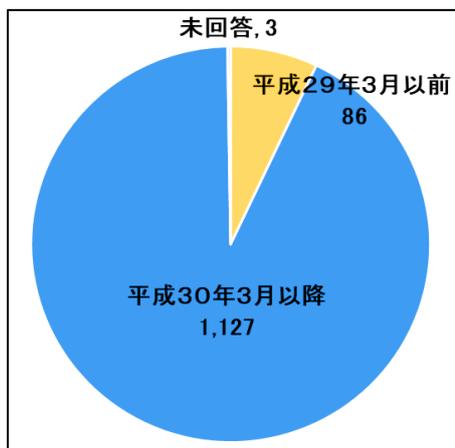
➤ 結果

問1 あなたが卒業した大学(歯学部)はどこですか。



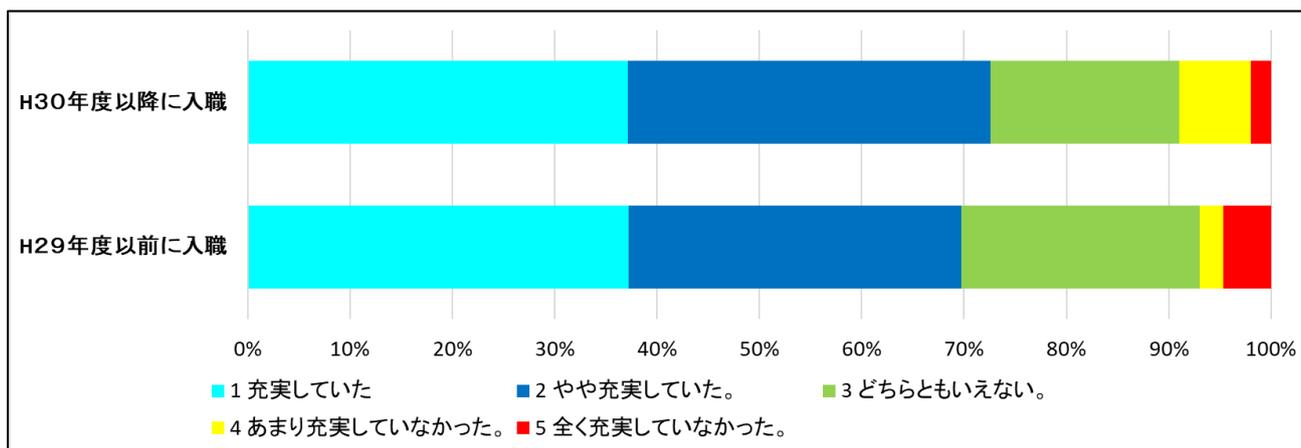
回答内容	回答数
北海道大学	24
東北大学	27
東京医科歯科大学	35
新潟大学	24
大阪大学	27
岡山大学	27
広島大学	27
徳島大学	21
九州大学	12
長崎大学	25
鹿児島大学	30
九州歯科大学	50
北海道医療大学	37
岩手医科大学	24
奥羽大学	34
明海大学	12
東京歯科大学	106
日本大学	104
日本大学松戸歯学部	60
日本歯科大学	84
昭和大学	39
鶴見大学	46
神奈川歯科大学	39
松本歯科大学	34
日本歯科大学新潟	42
朝日大学	68
愛知学院大学	69
大阪歯科大学	64
福岡歯科大学	21
認定および予備試験	02
未回答	02
合計	1,216

問2 あなたが歯学部を卒業したのはいつですか。



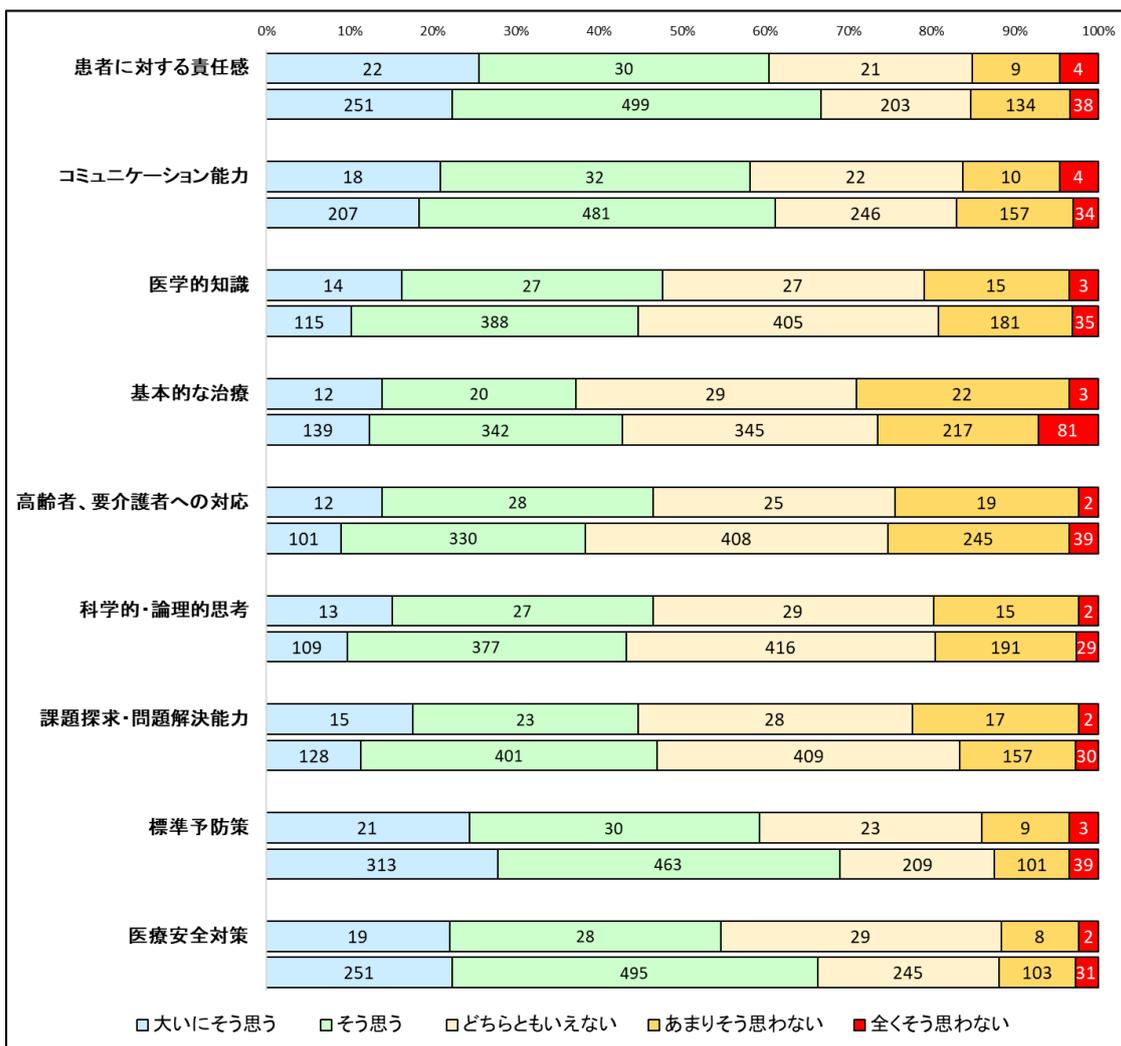
回答内容	回答数	%
平成29(2017)年3月以前	86	7.1%
平成30(2018)年3月以降	1,127	92.7%
未回答	3	0.2%
合計	1,216	100.0%

問3 あなたが卒業した大学(歯学部)では、診療参加型臨床実習は充実していましたか。



回答内容	H29年度以前に入職		H30年度以降に入職	
	回答数	%	回答数	%
充実していた	32	37.2%	419	37.2%
やや充実していた。	28	32.6%	399	35.4%
どちらともいえない。	20	23.3%	208	18.5%
あまり充実していなかった。	2	2.3%	79	7.0%
全く充実していなかった。	4	4.7%	22	2.0%
未回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	86	100.0%	1,127	100.0%

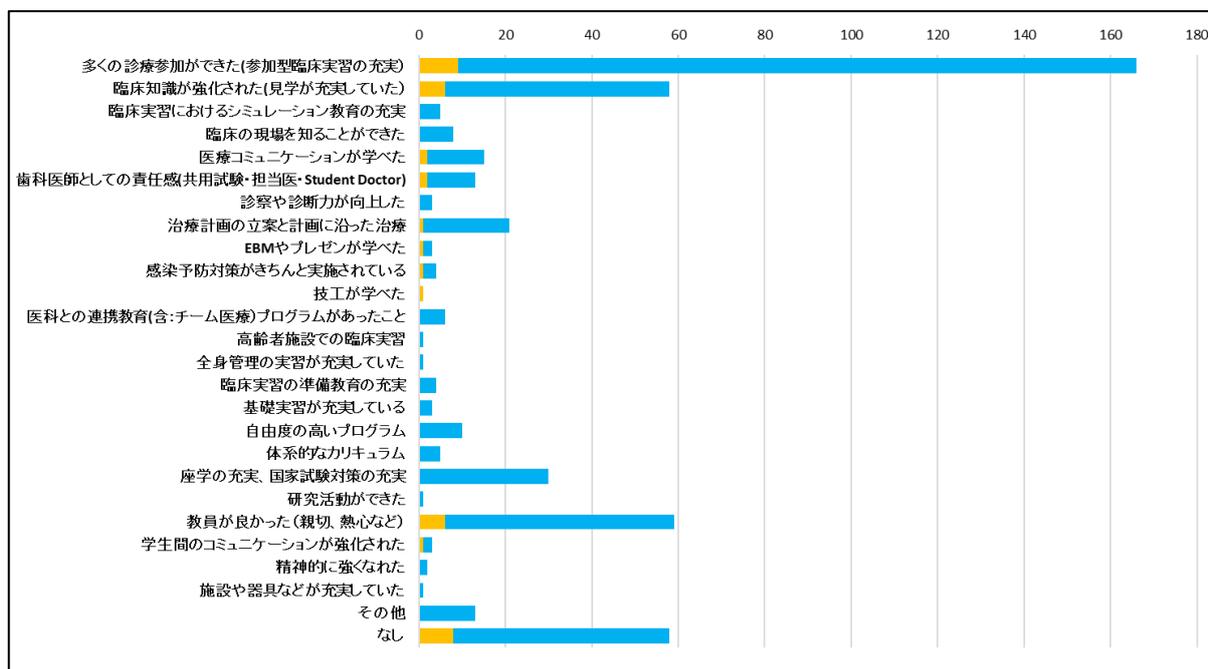
問4 あなたの「臨床研修開始時点での能力」に関する9項目について、以下の評価クライテリアを基準に5段階で自己評価をしてください。



回答内容		大いに そう思う	そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
患者に対する責任感	平成29年以前	22	30	21	9	4
	平成30年以降	251	499	203	134	38
コミュニケーション能力	平成29年以前	18	32	22	10	4
	平成30年以降	207	481	246	157	34
医学的知識	平成29年以前	14	27	27	15	3
	平成30年以降	115	388	405	181	35
基本的な治療	平成29年以前	12	20	29	22	3
	平成30年以降	139	342	345	217	81
高齢者、要介護者への対応	平成29年以前	12	28	25	19	2
	平成30年以降	101	330	408	245	39
科学的・論理的思考	平成29年以前	13	27	29	15	2
	平成30年以降	109	377	416	191	29
課題探求・問題解決能力	平成29年以前	15	23	28	17	2
	平成30年以降	128	401	409	157	30
標準予防策	平成29年以前	21	30	23	9	3
	平成30年以降	313	463	209	101	39
医療安全対策	平成29年以前	19	28	29	8	2
	平成30年以降	251	495	245	103	31

問5 自分の修了した卒前(歯学部)教育について、良かった点、物足りない点など、お気づきのことがありましたらお書き下さい。(自由記載)

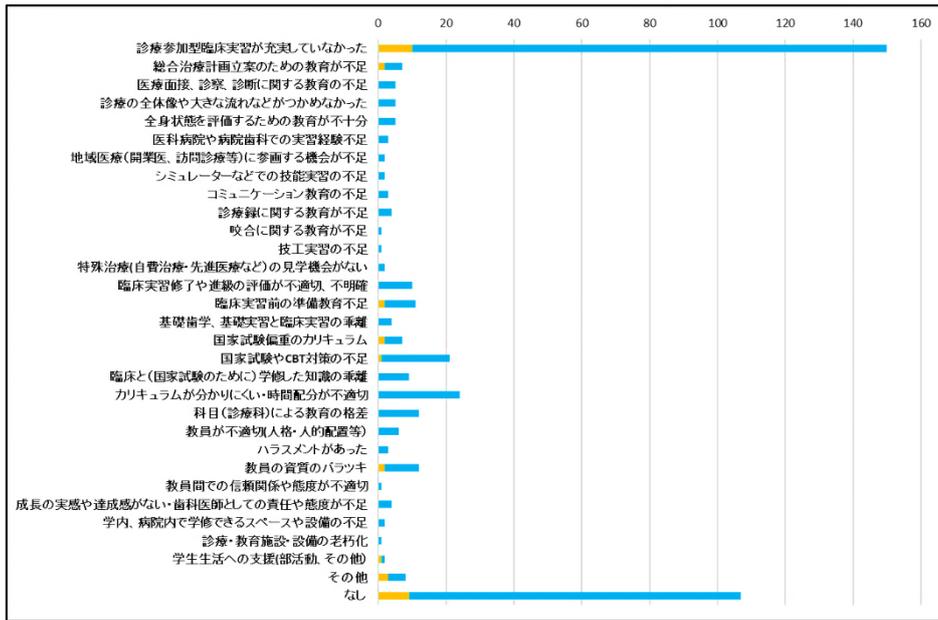
① 良かった点



良かった点

	H29 以前	H30 以降
多くの診療参加ができた(参加型臨床実習の充実)	9	157
臨床知識が強化された(見学が充実していた)	6	52
臨床実習におけるシミュレーション教育の充実	0	5
臨床の現場を知ることができた	0	8
医療コミュニケーションが学べた	2	13
歯科医師としての責任感(共用試験・担当医・Student Dentist)	2	11
診察や診断力が向上した	0	3
治療計画の立案と計画に沿った治療	1	20
EBM やプレゼンが学べた	1	2
感染予防対策がきちんと実施されている	1	3
技工が学べた	1	0
医科との連携教育(含:チーム医療)プログラムがあったこと	0	6
高齢者施設での臨床実習	0	1
全身管理の実習が充実していた	0	1
臨床実習の準備教育の充実	0	4
基礎実習が充実している	0	3
自由度の高いプログラム	0	10
体系的なカリキュラム	0	5
座学の充実、国家試験対策の充実	0	30
研究活動ができた	0	1
教員が良かった(親切、熱心など)	6	53
学生間のコミュニケーションが強化された	1	2
精神的に強くなった	0	2
施設や器具などが充実していた	0	1
その他	0	13
なし	8	50
計	38	456

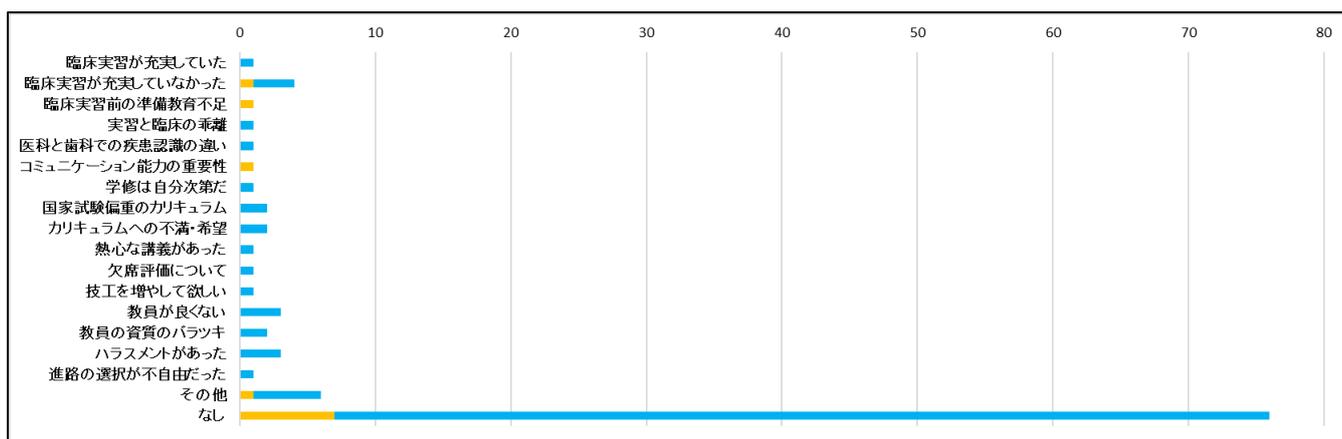
②物足りなかった点



足りなかった点

	H29以前	H30以降
診療参加型臨床実習が充実していなかった	10	140
総合治療計画立案のための教育が不足	2	5
医療面接、診察、診断に関する教育の不足		5
診療の全体像や大きな流れなどがつかめなかった		5
全身状態を評価するための教育が不十分		5
医科病院や病院歯科での実習経験不足		3
地域医療(開業医、訪問診療等)に参画する機会が不足		2
シミュレータなどでの技能実習の不足		2
コミュニケーション教育の不足		3
診療録に関する教育が不足		4
咬合に関する教育が不足		1
技工実習の不足		1
特殊治療(自費治療・先進医療など)の見学機会がない		2
臨床実習修了や進級の評価が不適切、不明確		10
臨床実習前の準備教育不足	2	9
基礎歯学、基礎実習と臨床実習の乖離		4
国家試験偏重のカリキュラム	2	5
国家試験やCBT対策の不足	1	20
臨床と(国家試験のために)学修した知識の乖離		9
カリキュラムが分かりにくい・時間配分が不適切		24
科目(診療科)による教育の格差		12
教員が不適切(人格・人的配置等)		6
ハラスメントがあった		3
教員の資質のバラツキ	2	10
教員間での信頼関係や態度が不適切		1
成長の実感や達成感がない・歯科医師としての責任や態度が不足		4
学内、病院内で学修できるスペースや設備の不足		2
診療・教育施設・設備の老朽化		1
学生生活への支援(部活動、その他)	1	1
その他	3	5
なし	9	98
計	32	402

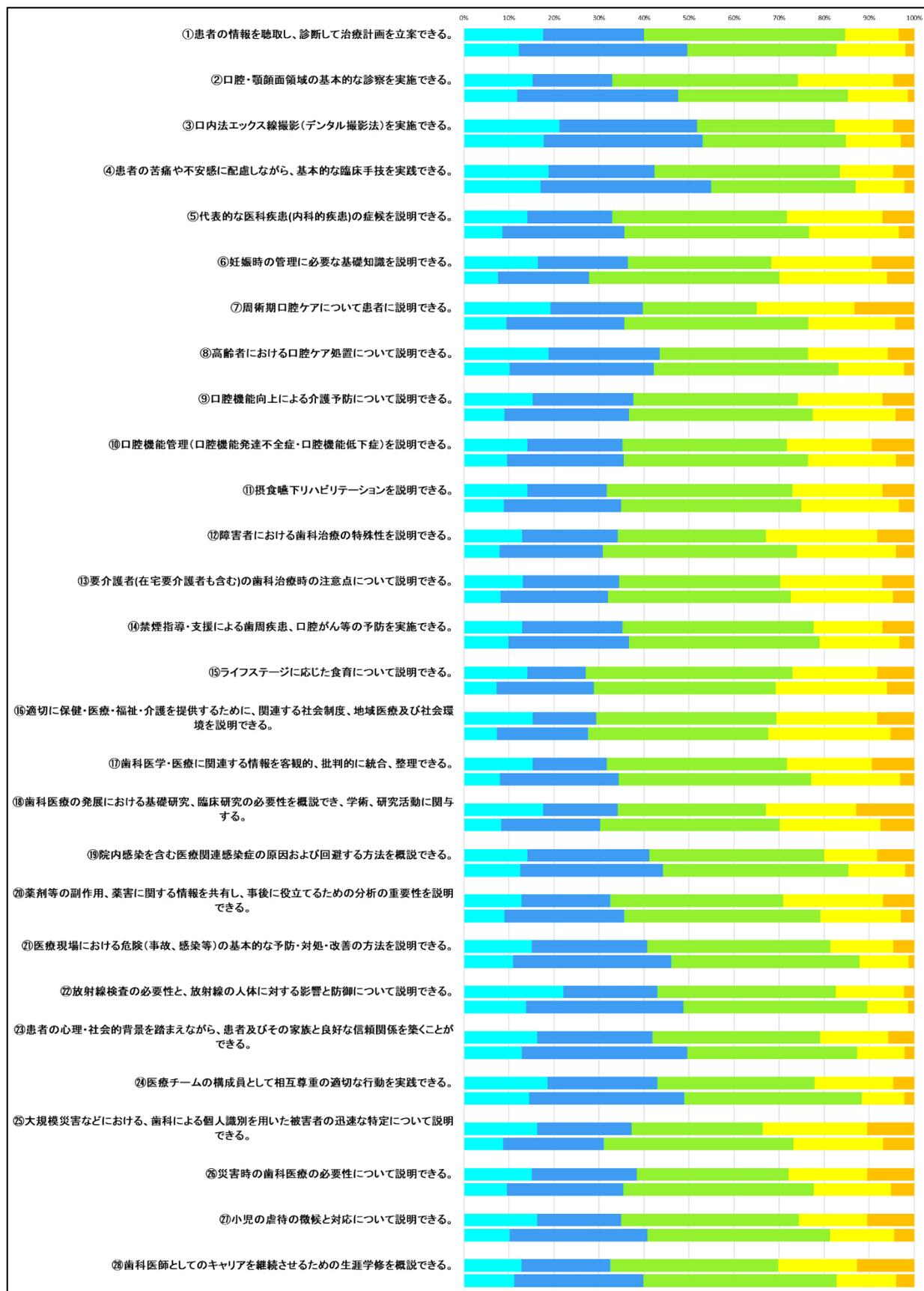
③ その他



その他コメント

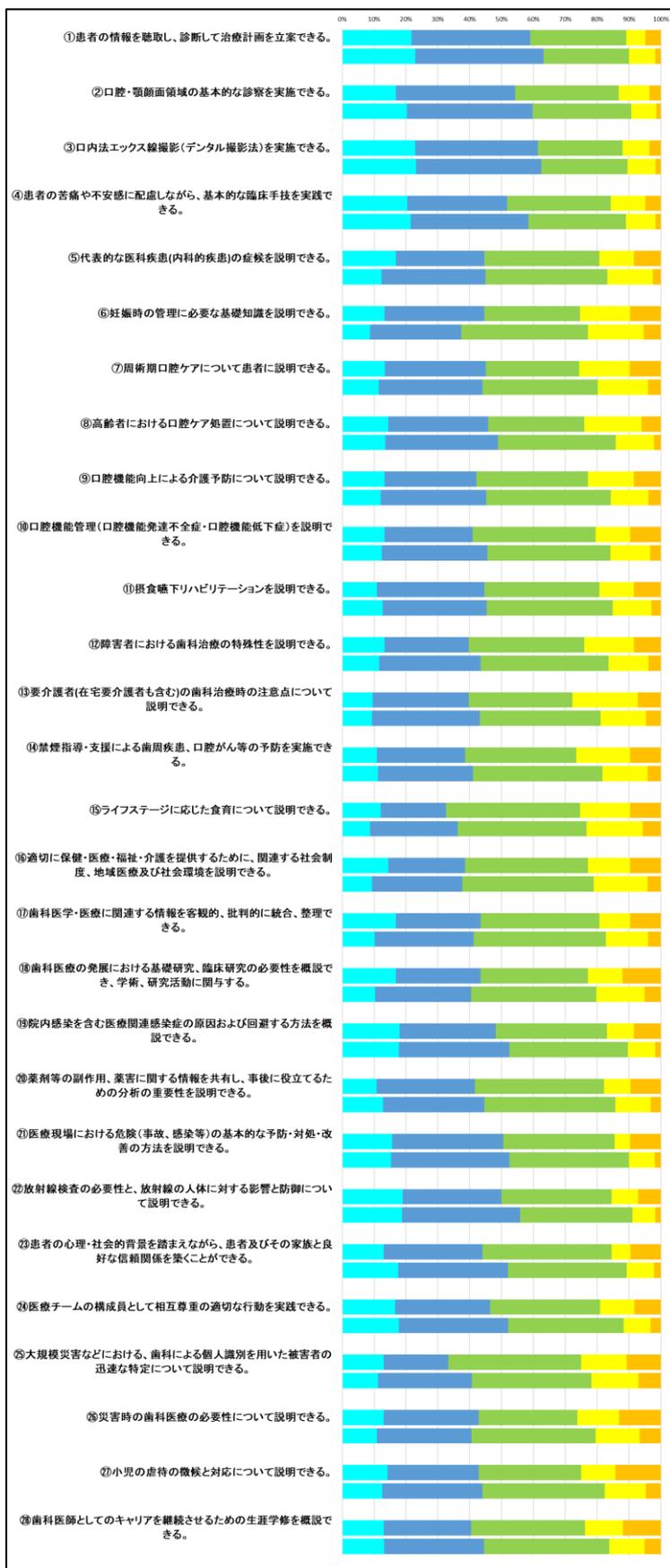
	H29以前	H30以降
臨床実習が充実していた		1
臨床実習が充実していなかった	1	3
臨床実習前の準備教育不足	1	
実習と臨床の乖離		1
医科と歯科での疾患認識の違い		1
コミュニケーション能力の重要性	1	0
学修は自分次第だ		1
国家試験偏重のカリキュラム		2
カリキュラムへの不満・希望		2
熱心な講義があった		1
欠席評価について		1
技工を増やして欲しい		1
教員が良くない		3
教員の資質のバラツキ		2
ハラスメントがあった		3
進路の選択が不自由だった		1
その他	1	5
なし	7	69
計	11	97

問6 大学(歯学部)卒業時を振り返って、以下の28項目についてあなたの研修開始時点での能力を以下の評価クライテリアを基準に5段階で評価してください。



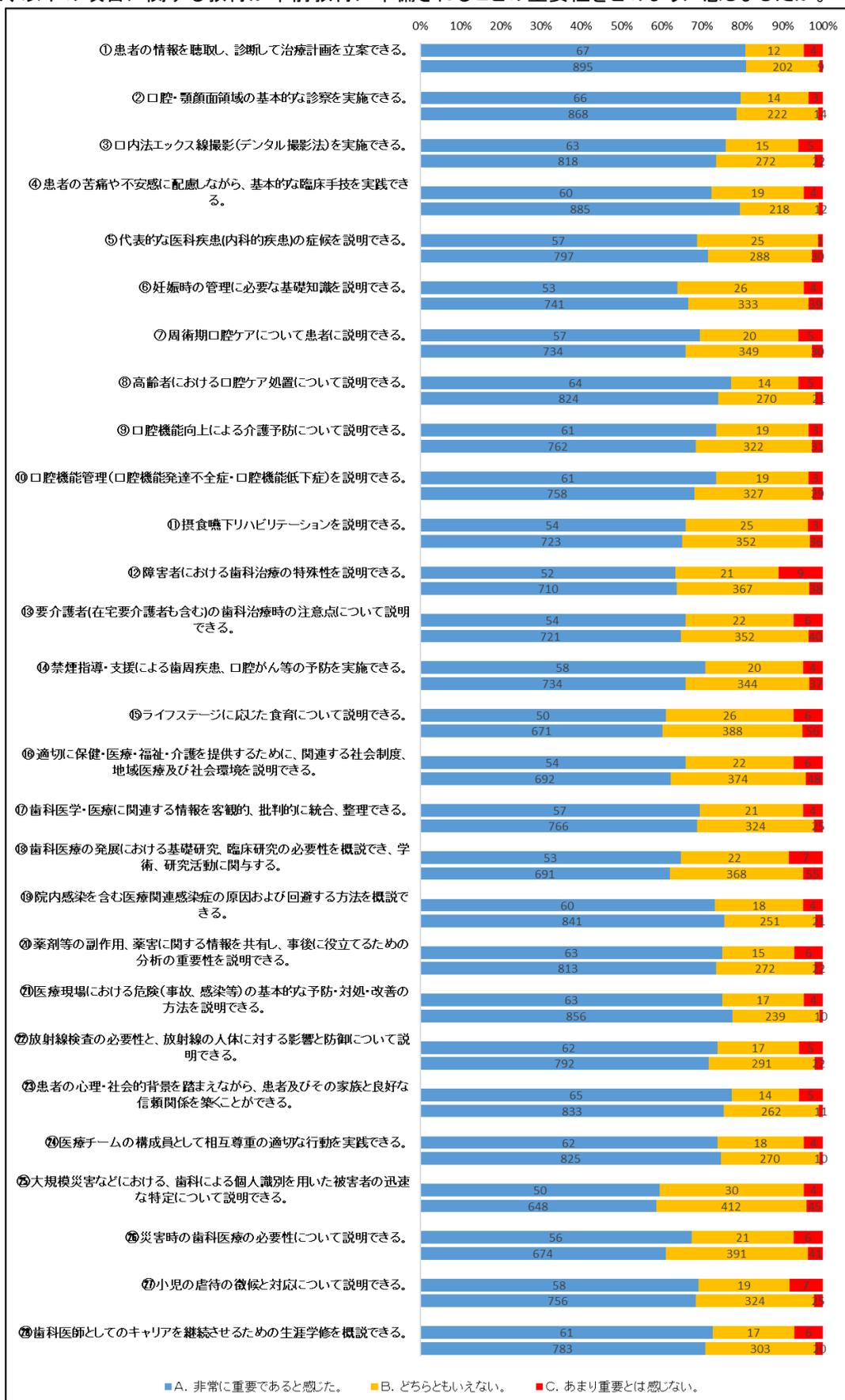
回答内容		1. 技能、態度を実践できる。	2. 要点を熟知している。	3. 概略を知っている。	4. 知識としては不十分。	5. 学ぶ機会がない。
①患者の情報を聴取し、診断して治療計画を立案できる。	H29年度以前	15	19	38	10	3
	H30年度以降	136	416	369	170	22
②口腔・顎顔面領域の基本的な診察を実施できる。	H29年度以前	13	15	35	18	4
	H30年度以降	132	397	419	148	16
③口内法エックス線撮影(デンタル撮影法)を実施できる。	H29年度以前	18	26	26	11	4
	H30年度以降	198	395	356	137	33
④患者の苦痛や不安感に配慮しながら、基本的な臨床手技を実践できる。	H29年度以前	16	20	35	10	4
	H30年度以降	191	426	360	121	25
⑤代表的な医科疾患(内科的疾患)の症候を説明できる。	H29年度以前	12	16	33	18	6
	H30年度以降	96	304	460	224	38
⑥妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。	H29年度以前	14	17	27	19	8
	H30年度以降	85	226	474	268	68
⑦周術期口腔ケアについて患者に説明できる。	H29年度以前	16	17	21	18	11
	H30年度以降	106	294	458	215	48
⑧高齢者における口腔ケア処置について説明できる。	H29年度以前	16	21	28	15	5
	H30年度以降	114	359	461	163	26
⑨口腔機能向上による介護予防について説明できる。	H29年度以前	13	19	31	16	6
	H30年度以降	101	310	457	206	47
⑩口腔機能管理(口腔機能発達不全症・口腔機能低下症)を説明できる。	H29年度以前	12	18	31	16	8
	H30年度以降	108	290	458	218	46
⑪摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。	H29年度以前	12	15	35	17	6
	H30年度以降	100	292	448	244	38
⑫障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。	H29年度以前	11	18	28	21	7
	H30年度以降	89	257	484	246	46
⑬要介護者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点について説明できる。	H29年度以前	11	18	30	19	6
	H30年度以降	92	267	456	254	53
⑭禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。	H29年度以前	11	19	36	13	6
	H30年度以降	111	301	474	199	37
⑮ライフステージに応じた食育について説明できる。	H29年度以前	12	11	39	16	7
	H30年度以降	81	243	452	277	68
⑯適切に保健・医療・福祉・介護を提供するために、関連する社会制度、地域医療及び社会環境を説明できる。	H29年度以前	13	12	34	19	7
	H30年度以降	82	227	449	304	59
⑰歯科医学・医療に関連する情報を客観的、批判的に統合、整理できる。	H29年度以前	13	14	34	16	8
	H30年度以降	90	296	479	222	35
⑱歯科医療の発展における基礎研究、臨床研究の必要性を概説でき、学術、研究活動に関与する。	H29年度以前	15	14	28	17	11
	H30年度以降	93	247	448	251	84
⑲院内感染を含む医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。	H29年度以前	12	23	33	10	7
	H30年度以降	141	354	462	141	23
⑳薬剤等の副作用、薬害に関する情報を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。	H29年度以前	11	17	33	19	6
	H30年度以降	101	296	486	200	33
㉑医療現場における危険(事故、感染等)の基本的な予防・対処・改善の方法を説明できる。	H29年度以前	13	22	35	12	4
	H30年度以降	122	392	465	122	14
㉒放射線検査の必要性和、放射線の人体に対する影響と防御について説明できる。	H29年度以前	19	18	34	13	2
	H30年度以降	154	390	454	102	15
㉓患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な信頼関係を築くことができる。	H29年度以前	14	22	32	13	5
	H30年度以降	144	410	421	117	24
㉔医療チームの構成員として相互尊重の適切な行動を実践できる。	H29年度以前	16	21	30	15	4
	H30年度以降	161	384	438	105	25
㉕大規模災害などにおける、歯科による個人識別を用いた被害者の迅速な特定について説明できる。	H29年度以前	14	18	25	20	9
	H30年度以降	97	250	469	221	78
㉖災害時の歯科医療の必要性について説明できる。	H29年度以前	13	20	29	15	9
	H30年度以降	107	288	471	191	58
㉗小児の虐待の徴候と対応について説明できる。	H29年度以前	14	16	34	13	9
	H30年度以降	113	342	452	160	49
㉘歯科医師としてのキャリアを継続させるための生涯学修を概説できる。	H29年度以前	11	17	32	15	11
	H30年度以降	125	320	478	148	45

問7 あなたの修得程度とは関係なく、以下の項目に関する教育が出身大学のカリキュラムにおいてどの程度準備されていたと感じますか。



回答内容		1.十分に学修 できるプログラ ムがあった。	2.知識を学修 するプログラ ムがあった。	3.部分的 に参加でき るプログラ ムがあっ た。	4.プログラ ムは不十分 であった。	5.学修する 機会はなか った。
①患者の情報を聴取し、診断して治療計画を立案できる。	H29年度以前	18	31	25	5	4
	H30年度以降	254	445	298	90	20
②口腔・顎顔面領域の基本的な診察を実施できる。	H29年度以前	14	31	27	8	3
	H30年度以降	224	436	341	87	16
③口内法エックス線撮影(デンタル撮影法)を実施できる。	H29年度以前	19	32	22	7	3
	H30年度以降	258	437	302	97	19
④患者の苦痛や不安感に配慮しながら、基本的な臨床手技を実践できる。	H29年度以前	17	26	27	9	4
	H30年度以降	240	412	341	103	19
⑤代表的な医科疾患(内科的疾患)の症候を説明できる。	H29年度以前	14	23	30	9	7
	H30年度以降	137	364	425	159	28
⑥妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。	H29年度以前	11	26	25	13	8
	H30年度以降	97	318	444	195	59
⑦周術期口腔ケアについて患者に説明できる。	H29年度以前	11	26	24	13	8
	H30年度以降	128	361	402	175	45
⑧高齢者における口腔ケア処置について説明できる。	H29年度以前	12	26	25	15	5
	H30年度以降	151	393	411	135	23
⑨口腔機能向上による介護予防について説明できる。	H29年度以前	11	24	29	12	7
	H30年度以降	134	369	436	132	43
⑩口腔機能管理(口腔機能発達不全症・口腔機能低下症)を説明できる。	H29年度以前	11	23	32	9	8
	H30年度以降	139	369	431	140	37
⑪摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。	H29年度以前	9	28	30	9	7
	H30年度以降	141	362	440	135	33
⑫障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。	H29年度以前	11	22	30	13	7
	H30年度以降	129	355	449	140	43
⑬要介護者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点について説明できる。	H29年度以前	8	25	27	17	6
	H30年度以降	104	377	422	158	52
⑭禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。	H29年度以前	9	23	29	14	8
	H30年度以降	125	334	453	159	46
⑮ライフステージに応じた食育について説明できる。	H29年度以前	10	17	35	13	8
	H30年度以降	98	306	450	197	63
⑯適切に保健・医療・福祉・介護を提供するために、関連する社会制度、地域医療及び社会環境を説明できる。	H29年度以前	12	20	32	11	8
	H30年度以降	104	316	458	189	46
⑰歯科医学・医療に関連する情報を客観的、批判的に統合、整理できる。	H29年度以前	14	22	31	8	8
	H30年度以降	114	347	462	148	45
⑱歯科医療の発展における基礎研究、臨床研究の必要性を概説でき、学術、研究活動に関与する。	H29年度以前	14	22	28	9	10
	H30年度以降	115	336	439	169	57
⑲院内感染を含む医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。	H29年度以前	15	25	29	7	7
	H30年度以降	199	387	415	96	20
⑳薬剤等の副作用、薬害に関する情報を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。	H29年度以前	9	26	34	7	8
	H30年度以降	142	352	454	122	36
㉑医療現場における危険(事故、感染等)の基本的な予防・対処・改善の方法を説明できる。	H29年度以前	13	29	29	4	8
	H30年度以降	169	413	415	90	21
㉒放射線検査の必要性和、放射線の人体に対する影響と防御について説明できる。	H29年度以前	16	26	29	7	6
	H30年度以降	208	410	391	80	19
㉓患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な信頼関係を築くことができる。	H29年度以前	11	26	34	5	8
	H30年度以降	194	382	414	95	23
㉔医療チームの構成員として相互尊重の適切な行動を実践できる。	H29年度以前	14	25	29	9	7
	H30年度以降	197	381	401	93	36
㉕大規模災害などにおける、歯科による個人識別を用いた被害者の迅速な特定について説明できる。	H29年度以前	11	17	35	12	9
	H30年度以降	124	326	416	163	78
㉖災害時の歯科医療の必要性について説明できる。	H29年度以前	11	25	26	11	11
	H30年度以降	121	327	432	153	73
㉗小児の虐待の徴候と対応について説明できる。	H29年度以前	12	24	27	9	12
	H30年度以降	139	349	426	142	53
㉘歯科医師としてのキャリアを継続させるための生涯学修を概説できる。	H29年度以前	11	23	30	10	10
	H30年度以降	145	347	435	123	56

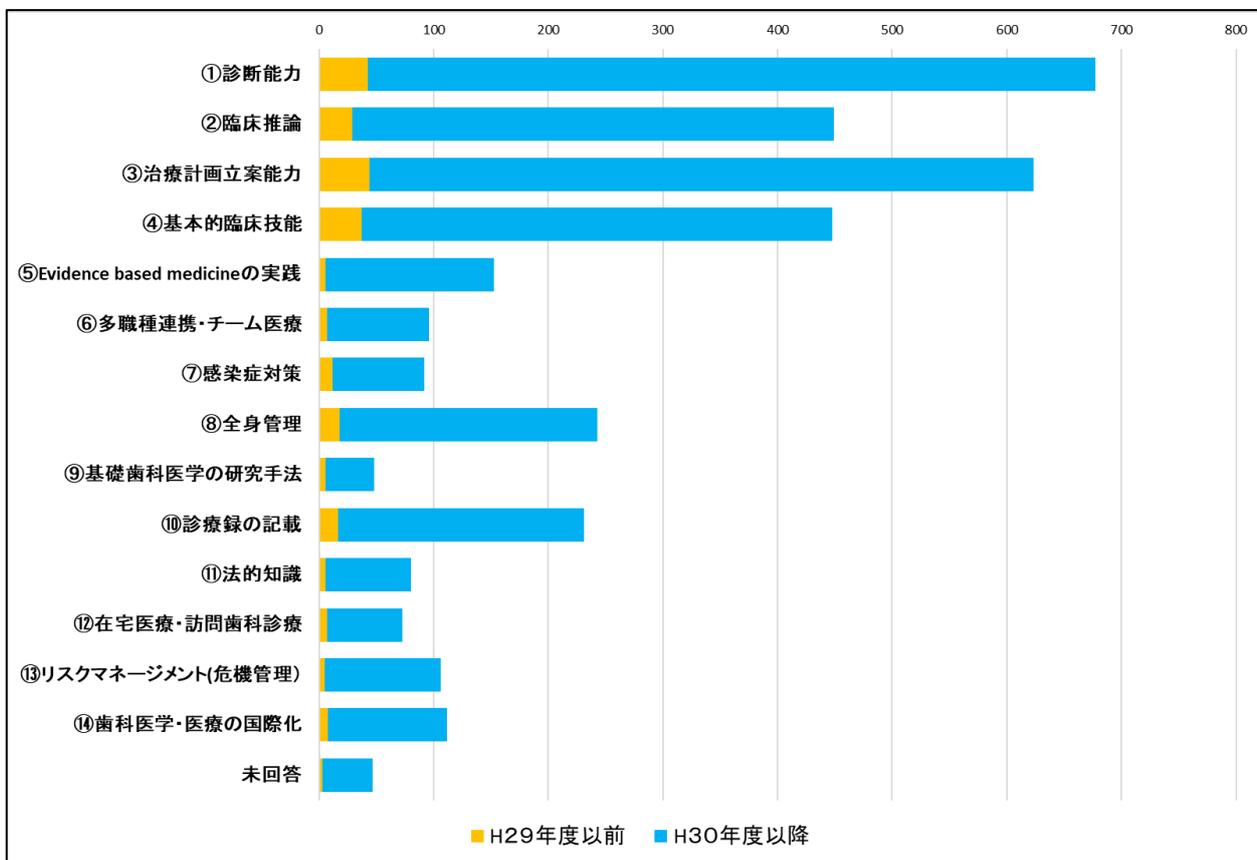
問8 (あなたの出身大学のカリキュラムでの準備状況とは関係なく)、あなたが約1年間の臨床研修における経験などを通じて、以下の項目に関する教育が卒前教育に準備されることの重要性をどのように感じましたか。



回答内容		A. 非常に重要	B. どちらでもない	C. 重要でない
①患者の情報を聴取し、診断して治療計画を立案できる。	H29年度以前	67	12	4
	H30年度以降	895	202	9
②口腔・顎顔面領域の基本的な診察を実施できる。	H29年度以前	66	14	3
	H30年度以降	868	222	14
③口内法エックス線撮影(デンタル撮影法)を実施できる。	H29年度以前	63	15	5
	H30年度以降	818	272	22
④患者の苦痛や不安感に配慮しながら、基本的な臨床手技を實踐できる。	H29年度以前	60	19	4
	H30年度以降	885	218	12
⑤代表的な歯科疾患(内科的疾患)の症候を説明できる。	H29年度以前	57	25	1
	H30年度以降	797	288	30
⑥妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。	H29年度以前	53	26	4
	H30年度以降	741	333	39
⑦周術期口腔ケアについて患者に説明できる。	H29年度以前	57	20	5
	H30年度以降	734	349	30
⑧高齢者における口腔ケア処置について説明できる。	H29年度以前	64	14	5
	H30年度以降	824	270	21
⑨口腔機能向上による介護予防について説明できる。	H29年度以前	61	19	3
	H30年度以降	762	322	31
⑩口腔機能管理(口腔機能発達不全症・口腔機能低下症)を説明できる。	H29年度以前	61	19	3
	H30年度以降	758	327	29
⑪摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。	H29年度以前	54	25	3
	H30年度以降	723	352	36
⑫障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。	H29年度以前	52	21	9
	H30年度以降	710	367	38
⑬要介護者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点について説明できる。	H29年度以前	54	22	6
	H30年度以降	721	352	40
⑭禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。	H29年度以前	58	20	4
	H30年度以降	734	344	37
⑮ライフステージに応じた食育について説明できる。	H29年度以前	50	26	6
	H30年度以降	671	388	56
⑯適切に保健・医療・福祉・介護を提供するために、関連する社会制度、地域医療及び社会環境を説明できる。	H29年度以前	54	22	6
	H30年度以降	692	374	48
⑰歯科医学・医療に関連する情報を客観的、批判的に統合、整理できる。	H29年度以前	57	21	4
	H30年度以降	766	324	25
⑱歯科医療の発展における基礎研究、臨床研究の必要性を概説でき、学術、研究活動に関与する。	H29年度以前	53	22	7
	H30年度以降	691	368	55
⑲院内感染を含む医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。	H29年度以前	60	18	4
	H30年度以降	841	251	21
⑳薬剤等の副作用、薬害に関する情報を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。	H29年度以前	63	15	6
	H30年度以降	813	272	22
㉑医療現場における危険(事故、感染等)の基本的な予防・対処・改善の方法を説明できる。	H29年度以前	63	17	4
	H30年度以降	856	239	10
㉒放射線検査の必要性と、放射線の人体に対する影響と防御について説明できる。	H29年度以前	62	17	5
	H30年度以降	792	291	22
㉓患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な信頼関係を築くことができる。	H29年度以前	65	14	5
	H30年度以降	833	262	11
㉔医療チームの構成員として相互尊重の適切な行動を實踐できる。	H29年度以前	62	18	4
	H30年度以降	825	270	10
㉕大規模災害などにおける、歯科による個人識別を用いた被害者の迅速な特定について説明できる。	H29年度以前	50	30	4
	H30年度以降	648	412	45
㉖災害時の歯科医療の必要性について説明できる。	H29年度以前	56	21	6
	H30年度以降	674	391	41
㉗小児の虐待の徴候と対応について説明できる。	H29年度以前	58	19	7
	H30年度以降	756	324	25
㉘歯科医師としてのキャリアを継続させるための生涯学習を概説できる。	H29年度以前	61	17	6
	H30年度以降	783	303	20

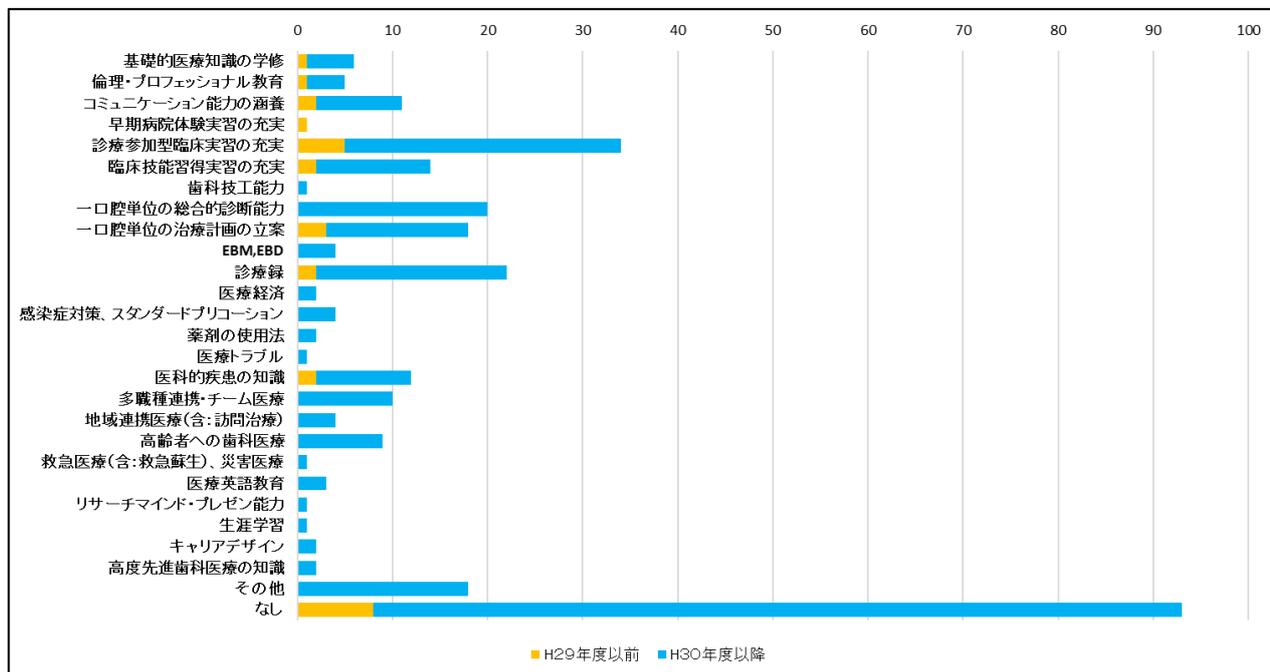
問9 今後の卒前(歯学部)教育において、強化した方がいいと思われる項目を以下から選んでください。(記入欄に3つまで○を入れてください)

※は当該項目の発展として臨床研修、生涯学修における内容なども含む



回答内容	H29年度以前		H30年度以降	
	回答数	%	回答数	%
①診断能力	43	17.3%	634	19.6%
②臨床推論	29	11.7%	420	13.0%
③治療計画立案能力	44	17.7%	579	17.9%
④基本的臨床技能	37	14.9%	411	12.7%
⑤Evidence based medicine の実践	6	2.4%	147	4.6%
⑥多職種連携・チーム医療	7	2.8%	89	2.8%
⑦感染症対策	12	4.8%	80	2.5%
⑧全身管理	18	7.3%	225	7.0%
⑨基礎歯科医学の研究手法	6	2.4%	42	1.3%
⑩診療録の記載	17	6.9%	214	6.6%
⑪法的知識	6	2.4%	74	2.3%
⑫在宅医療・訪問歯科診療	7	2.8%	66	2.0%
⑬リスクマネジメント(危機管理)	5	2.0%	101	3.1%
⑭歯科医学・医療の国際化	8	3.2%	104	3.2%
未回答	3	1.2%	44	1.4%
合計	248	100.0%	3,230	100.0%

問10 今後の歯科医療の変化を考慮して卒前(歯学部)教育に導入または、強化した方が良い(医療専門職としての倫理感・基本的態度や生涯学習などの態度項目を含めた)学修項目や卒前(歯学部)教育へのご要望がありましたら自由にお書きください。



	H29年度以前	H30年度以降
基礎的医療知識の学修	1	5
倫理・プロフェッショナル教育	1	4
コミュニケーション能力の涵養	2	9
早期病院体験実習の充実	1	0
診療参加型臨床実習の充実	5	29
臨床技能習得実習の充実	2	12
歯科技工能力	0	1
一口腔単位の総合的診断能力	0	20
一口腔単位の治療計画の立案	3	15
EBM,EBD	0	4
診療録	2	20
医療経済	0	2
感染症対策、スタンダードプリコーション	0	4
薬剤の使用法	0	2
医療トラブル	0	1
医科的疾患の知識	2	10
多職種連携・チーム医療	0	10
地域連携医療(含:訪問治療)	0	4
高齢者への歯科医療	0	9
救急医療(含:救急蘇生)、災害医療	0	1
医療英語教育	0	3
リサーチマインド・プレゼン能力	0	1
生涯学習	0	1
キャリアデザイン	0	2
高度先進歯科医療の知識	0	2
その他	0	18
なし	8	85
合計	27	274

5) 感染症教育に関する調査

【調査の概要】

医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂調査研究チームが主催する感染症講演会に参加した。医学教育コアカリ改訂に関する調査研究グループから情報収集を行い、どのような項目が歯学教育に必要なかを検討した。

➤ 調査時期(感染症講演会)

第1回 2020年12月18日(金) 14:00-15:00 講師:東邦大学 舘田一博先生

第2回 2021年1月8日(金) 14:00-15:00 講師:京都大学 西浦博先生

第3回 2021年1月19日(火) 13:00-14:00 講師:地域医療機能推進機構 尾身茂先生

14:20-15:00 講師:国立国際医療研究センター 大曲貴夫先生

➤ 調査対象

医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂調査研究チームが主催する感染症講演会

➤ 調査方法

Zoom 会議での講演会とその後の討論に参加

➤ 調査内容

- 1 医学部学生教育に求められる教育内容
- 2 感染症の専門家からみた新型コロナ感染症対策の経緯
- 3 公衆衛生の専門家からみた新型コロナ感染症対策の経緯
- 4 呼吸器感染症の専門医からみた新型コロナ感染症対策の経緯

➤ 調査から得られた結果と提言

1) 調査結果

どの講師も、政府関係機関で活躍されている先生方である。TV やインターネットを通じて一般国民が見聞きしている内容を、時には専門的な意見を交えて解説していただいた。2020年における新型コロナウイルス感染の第一波の流行では、歯科医師も多数感染したとのことであった。

日本国における新型コロナウイルス感染の拡大を通じ、医学教育での感染症に対する教育の反省点をいくつか指摘された。医学教育において、感染症は大切な分野ではあるが、感染症に対する一般的な概要教育にとどまっており、感染症学を population science の観点から教育していなかったことが指摘された。また、実際の医療現場では、感染対策をしながら、同時に高度医療を提供しなくてはならない問題点も指摘された。感染対策は医療管理に含まれるものであり、医療に携わるすべての職種が感染症に対する知識・技術を、一定の水準まで高める必要性も指摘された。さらに、国の制度、ロジスティクス、保健所機能などに関する新たな課題が浮かび上がった。

2)コアカリ改訂に向けての提言

歯学教育においては、感染症対策の歴史的な経緯を踏まえた感染症の疫学の意義、診断能力を含む感染症患者への対応、ユニバーサルな感染管理の習得と、それを可能にする生涯教育の充実が必要と考える。一方で、特定の分野の専門医のみでなく、横断診療が可能な感染症専門医や感染症領域の疫学専門家の人材育成が必要である。

IV. おわりに

少子高齢化や国民の健康意識の高まりなどにより、歯科疾病構造は変化している。また、超高齢社会における慢性の全身疾患を有する患者の増加への対応、多職種との連携による口腔機能の維持・管理など、社会的ニーズに合致した歯科医療への転換が必要となっている。一方で従来の歯科治療の概念を大きく変える Digital Dentistry や Artificial Interigence (AI) が急速に普及し、う蝕や歯周病といった歯科疾患の予防や治療から、顎口腔系の口腔機能の回復、維持に歯科診療がシフトしている。そのため、転換期には、う蝕や歯周病などに関する幅広い知識と技術、それを実践できる能力に加えて、ライフステージの応じた適切な予防と指導、治療法の選択、医療、福祉との連携のもと、一生涯にわたり口腔機能を維持し、健康寿命の延伸を支援する診療能力等が求められる。

歯学教育の基盤となるコアカリは、社会的ニーズの変化に応じて、これまでに平成 19 年度、平成 22 年度、平成 28 年度の三度にわたり改訂が行われてきた。特に平成 28 年度改訂では、卒業時に身につける能力として 9 つの資質が示された。今回の調査では、コアカリは、歯学教育において浸透しており、多くの大学でこれに準拠した教育が進められていることがわかった。そのため、コアカリ改訂を契機に、大多数の歯科大学、歯学部では、不足の科目の新設、方略の変更、改善などが進められることから、新たな時代の歯学教育の根幹を構築すべく、コアカリには多面的かつ中長期的な視点に立った枠組みの構築が求められる。

今回の調査結果から、具体的には次期コアカリ改訂に対して、以下の点の考慮が必要と思われる。

(1) 学修目標のみの列記から学修方略、評価の例示の記載の検討

多くの歯科大学・歯学部では多様なニーズを踏まえた様々な教育内容および学修方略の見直しコアカリ改訂を契機として行われているが、対応できない施設も散見される。そのため、全ての施設で歯科医師の基盤を形成するコアカリを網羅できるように、学修方略、評価の例示等を記載し、改訂への対応がスムーズに行われるよう支援する必要がある。

(2) Student Dentist の法整備による「臨床実習の内容と分類」および「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン」の改訂

コアカリ改訂により診療参加型臨床実習は全ての施設で行われており、「臨床実習の内容と分類」および「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン」は活用されている。しかしながら、臨床研修指導歯科医より、診療参加型臨床実習の質的、量的不足を指摘する意見が多く見られた。令和 6 年度より、歯科医師法の改正により、Student Dentist の称号が与えられること、さらに診療参加型臨床実習において実施できる歯科医療行為の拡大が期待できることから、改訂は必須である。

(3) General Dentist としての能力の涵養

研修指導歯科医から一口腔単位で口腔内を評価して、疾患発現の原因やプロセス、悪化因子となるリスクを抽出して、「総合治療計画の立案」に繋げる教育を含めて欲しいという意見が得られた。従来の縦割りの歯科保存学・歯科補綴学・口腔外科学に分けたカリキュラムから、統合的な教育へのシフトがまだ不十分であることが推察される。患者中心の歯科医療を実践するために、臨床推論、歯科での検査、総合治療計画の立案能力などの項目を新に設ける必要があるか検討を要する。加えて、現場では医学的知識の強化が求められている。

- (4) プロフェッショナリズム、生涯学修の涵養、科学的探求の教育
平成 28 年度改訂でコアカリに新たに示された能力であるが、これに関して修得度が低いと感じる指導歯科医が多い。これらは、6 年間を通じて学修する能力であり、らせん型学修が必要である。Good practice を示すなど、各大学に取り組む土壌を提供することが大切である。
- (5) 学修評価を念頭に入れた到達目標の設定
学修評価の中に可否制が含まれるものがある施設が見受けられる。コアカリでは目標への達成度を明確に示し、学生へフィードバックすることにより、学修の達成度が高まる。そのことから、コアカリにおいては、最終的にすべての学生の目標への達成度が評価されることを念頭に置き、評価可能な内容、記載とすることを考慮する必要がある。
- (6) グローバル化(歯科英語教育)への対応
歯科医学・歯科医療英語の講義は、大多数の施設で行われているが、一方で英語での授業は過半数しか行われていない。オンラインを用いた教育も可能になっていることから、歯科英語教育をコアカリ中に含めるか検討する必要がある。
- (7) 新型コロナウイルス感染症に対する対応等の感染症教育
歯科診療においては標準予防策が実践され、新型コロナウイルス感染症下においても徹底され、歯科診療所でのクラスターは発生の報告はほとんど無い。しかし、歯科医師には、感染症患者からの検体採取などのこれまでにない新たな役割が期待されている。そのため、感染症対策の歴史を踏まえながら、感染症の疫学の意義など感染症の基本的知識や感染予防の技能の学修について議論を深めなければならない。
- (8) コアカリ改訂の評価の継続的な実施について
今回、コアカリ改訂の効果の検証を行うためのアンケート調査を行ったが、比較するデータが無いため、調査項目、分析に苦勞した。今後続く改訂に向けて、今回の調査項目を基にアウトカムを評価する指標を作成し、毎年、または数年毎に調査を行う必要性を感じている。改訂を機にこれを検討する必要がある。

今回の調査結果からの提案ではないが、検討する必要があるものを列挙する。

- (9) Digital Dentistry や再生医療などの歯科先端医療の取扱い
歯科医療において様々な新規診療技術が導入されつつある。6年ごとに行われるコアカリ改訂にあたっては、歯科先端医療についての扱いをどうするか検討する必要がある。コアカリは、全体の歯学教育の6割程度の学修項目であるので、施設独自の学修項目としてとどめるかは、来年度の検討課題である。
- (10) 老年歯科学の学修目標の整理を含めた見直し
医学的知識、全身管理や歯科医療全般の技能、さらには、摂食・嚥下、栄養など多岐にわたる知識・技能・態度の学修が必要な領域であり、超高齢社会において必須の学修項目である。平成 28 年度コアカリ改訂で見直しが行われているが、さらなるブラッシュアップが必要と考えられる。
- (11) 共用試験 OSCE、臨床実習、臨床実習終了時臨床能力評価(Post-CC PX)との整合性
現在、共用試験が Student Dentistの称号付与の資格試験として位置づける準備が進められている。CBT では、コアカリがブループリントして利用されていることから、「G 臨床実習」と「臨床

実習の内容」は共用試験 OSEC、Post-CC PX とのすりあわせが必要であり、整合性をとる必要がある。

(12) 歯科医師としての学部教育、臨床研修、専門医へのキャリアパスの対応

日本歯科専門医機構が発足し、学部教育、臨床研修、専門医とのキャリアパスが明確になりつつある。そのため、専門職の歯科医としての資質を明確に示し、学部教育、臨床研修、専門医のそれぞれの時点での学修のマイルストーンを示すことにより、学修者の学修目標が明確になり、将来の進む方向性が理解できるものと思われる。そのスタートがコアカリであるため、生涯学修を考慮した構築が望まれる。

(13) 一般(教養)教育のコアカリ復活

歯科医師としての基本的な態度を学修する前にリベラルアーツを学ぶことにより、人間力を涵養し、その基盤の上に専門職としてのプロフェッショナリズムや医療安全、社会保障、多職種協働、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などへの理解と、歯科医師としての基本的な技能・態度を身につけることが学修の基本である。また、統計、ICT、AI、心理学、栄養学、行動科学など歯科医療と関連する基本的知識を一般(教養)教育として提示することも必要であろう。

謝辞

今回の調査にご協力いただいた全国歯科大学長・歯学部長ならびに研修指導歯科医と研修歯科医の皆様に感謝いたします。また、調査票の配布、回収等にご協力いただいた関係各位に感謝いたします。

この調査に関して本報告書をまとめるに当たり、ご助言をいただきました文部科学省高等教育局医学教育課の皆様にお礼申し上げます。

V. 資料

1. 令和2年度歯学教育カリキュラムの現状における調査票

<h2 style="margin: 0;">令和2年度歯学教育カリキュラムの現状における調査</h2> <p style="margin: 0;">令和2年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究チーム</p>

大学名	
ご担当者名（お問い合わせ先担当者）	
連絡先電話番号	
連絡先E-mail	

本調査は、全国の歯科大学・歯学部を対象に、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度改訂版」（以下、「平成28年度改訂版コア・カリ」と略します）の運用状況や現時点での教育実態および今後の教育改革に対するご意見を把握し、新たな歯学教育に反映するために、文部科学省委託事業「令和2年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究チーム」が実施する調査です。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い致します。なお、収集した情報につきましては、調査以外の目的には使用されません。

調査記入要領

- (1) 回答対象の時期について
令和2年12月現在での状況について、ご回答ください。
- (2) 問い合わせについて
(一社) 日本歯科医学教育学会 E-mail: gakkai35@kokuhoken.or.jp

設問1 カリキュラム全般

1-A. 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの扱いについて	
1)	平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、貴学では学士課程教育のカリキュラム改訂を行いましたか
<input type="checkbox"/>	①全面的に行った
<input type="checkbox"/>	②部分的に行った
<input type="checkbox"/>	③行っていない
	行っていない理由を具体的に：
2)	「全面的に行った」また「部分的に行った」場合、どのレベルまで改訂を行いましたか（複数選択可）
<input type="checkbox"/>	①科目の追加・廃止 具体的な科目名：
<input type="checkbox"/>	②科目の配置変更（対象学年や開講時期、授業時間の延長・短縮など）
<input type="checkbox"/>	③科目内の教育内容修正
<input type="checkbox"/>	④その他 具体的に：
3)	「全面的に行った」また「部分的に行った」場合、改訂したカリキュラムの対象者は何年度入学生からですか
<input type="checkbox"/>	平成
<input type="checkbox"/>	令和 () 年度入学生
4)	貴学にはカリキュラム改訂を担当する組織はありますか
<input type="checkbox"/>	①ある
<input type="checkbox"/>	②ない
5)	4) で「ある」と回答した場合、
	・ 具体的な組織の名称をご記入ください ()
	・ 主なスタッフ構成（役職・人数等）をご記入ください ()

1-B. 学修成果（コンピテンシー）	
平成28年度改訂版コア・カリで「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」が明示されましたが、貴学では	
1) 学修成果（コンピテンシー）を定めていますか	
<input type="checkbox"/>	①定めている
<input type="checkbox"/>	②定めていない
2) 1) で「定めている」と回答した場合、マイルストーンを定めていますか	
<input type="checkbox"/>	①定めている
<input type="checkbox"/>	②定めていない
1-C. シラバス	
1) 平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、シラバス記載内容の修正を行いましたか	
<input type="checkbox"/>	①全面的に行った 具体的に：
<input type="checkbox"/>	②部分的に行った 具体的に：
<input type="checkbox"/>	③行っていない
2) 平成28年度改訂版コア・カリのすべての項目がシラバスに反映されていることを確認していますか	
<input type="checkbox"/>	①確認している
<input type="checkbox"/>	②確認していない
3) 2) で「確認している」と回答した場合、確認作業を行っているのは誰ですか。組織名や役職名でお答えください	
1-D. コア・カリと大学独自のカリキュラムとの割合	
平成28年度改訂版コア・カリでは、各大学の特色ある独自のカリキュラムは学修時間数の4割程度と示されています（コア・カリは6割程度となります）	
1) 現状（コロナ禍以前）において、双方の学修時間数の割合はどの程度ですか （集計の都合上、合計で10となるようにしてください）	
独自カリキュラム : コア・カリ = () : ()	
2) 貴学では、理想的には双方の学修時間数の割合はどの程度が望ましいとお考えですか （集計の都合上、合計で10となるようにしてください）	
独自カリキュラム : コア・カリ = () : ()	
3) 2) の理想の割合に近づけるためには、貴学ではどのような教育内容の削減または追加が望ましいとお考えですか	
<input type="checkbox"/>	① 削減が望ましい教育内容 具体的に：
<input type="checkbox"/>	② 追加が望ましい教育内容 具体的に：
1-E. 授業時間配分への影響	
平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、下記の項目に変更がありましたか	
1) 学期区分（2学期制、3学期制、4学期制、学期制なし等）	
<input type="checkbox"/>	①変更があった 具体的に：
<input type="checkbox"/>	②変更なし
2) 1回の授業時間	
<input type="checkbox"/>	①変更があった 具体的に：
<input type="checkbox"/>	②変更なし
3) 一般教育（教養）の単位数および授業時間数	
<input type="checkbox"/>	①変更があった 具体的に：
<input type="checkbox"/>	②変更なし

	4) 専門教育の単位数および授業時間数
	<input type="checkbox"/> ①変更があった
	具体的に：
	<input type="checkbox"/> ②変更なし
	1-F. 過去の学士課程教育全体におけるカリキュラム改訂
	1) 平成28年（2016年）以前の最終改訂年度はいつですか
	<input type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 () 年度
	2) その当時の改訂のねらいは
	1-G. 学士課程教育全体におけるカリキュラム改訂の予定
	1) 今後、大幅なカリキュラム改訂の予定がありますか
	<input type="checkbox"/> ①ある
	<input type="checkbox"/> ②ない
	<input type="checkbox"/> ③未定
	2) 1) で「ある」と回答した場合、実施予定の時期は
	令和 () 年度
	3) 改訂の理由は

設問2 一般教育（教養）への影響

2-A. 一般教育（教養）カリキュラムの扱いについて

1) 平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、貴学では一般教育（教養）カリキュラム改訂を行いましたか

- ①全面的に行った
 ②部分的に行った
 ③行っていない

2) 1) で「全面的に行った」また「部分的に行った」と回答した場合、どのレベルまで改訂を行いましたか
 (複数選択可)

- ①科目の追加・廃止
 具体的な科目名：
 ②科目の配置変更（対象学年や開講時期、授業時間の延長・短縮など）
 ③科目内の教育内容修正
 ④その他
 具体的に：

3) 平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、教育内容に変化がありましたか。
 あった場合は、具体的にご記入ください。

- ①変化があった
 具体的に：
 ②変化はない

2-B. 一般教育（教養）科目の授業実施形態

もっとも当てはまるのはどの形態ですか（複数回答可）

- ①他学部・他学科の学生と「一緒」
 ②他学部・他学科の学生と「一部が一緒」
 ③歯学部他学科の学生と「一緒」
 ④歯学部他学科の学生と「一部が一緒」
 ⑤歯学部・歯学科単独での授業

2-C. 一般教育（教養）と専門教育との関係

1) 両者の関係に変更がありましたか（授業時間、開講時期、それぞれの割合など）

- ①あった
 具体的な内容は：
 ②ない

2) 変更があった場合、どのような理由での変更でしたか

2-D. 一般教育（教養）カリキュラムの改訂予定について

今後、大幅に一般教育（教養）カリキュラムを変える予定はありますか

- ①ある
 具体的な時期：
 ②ない
 ③未定

設問3 平成28年度改訂版コア・カリ導入による教育内容及び方略への影響

以下の内容は、平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、どのような変化がありましたか。

下記1～5のいずれかでご回答ください。

- 1.新規に追加・実施した
- 2.もともと実施されていたが内容が変化した
- 3.もともと実施されており、変化はない
- 4.もともと存在せず追加・実施も行っていない
- 5.その他

<教育内容及び方略>

	1	2	3	4	5				
新入生オリエンテーション	<input type="checkbox"/>								
早期体験実習 (Early Exposure)	<input type="checkbox"/>								
医療プロフェッショナルリズム教育	<input type="checkbox"/>								
行動科学・人間関係学	<input type="checkbox"/>								
医療安全 (患者安全)	<input type="checkbox"/>								
高齢者医療・在宅ケア・介護	<input type="checkbox"/>								
医療福祉学	<input type="checkbox"/>								
医療保険・医療経済・経営学	<input type="checkbox"/>								
スポーツ歯学	<input type="checkbox"/>								
法医学・法歯学	<input type="checkbox"/>								
臨床実習開始前の学外医療施設 (歯科診療所等) での実習	<input type="checkbox"/>								
臨床実習開始前の学外福祉施設 (高齢者施設等) での実習	<input type="checkbox"/>								
上記二つ以外の地域医療教育	<input type="checkbox"/>								
臨床実習中の学外医療施設 (歯科診療所) での実習	<input type="checkbox"/>								
臨床実習中の学外福祉施設 (高齢者施設等) での実習	<input type="checkbox"/>								
臨床実習中の国外施設での実習	<input type="checkbox"/>								
多職種連携教育	<input type="checkbox"/>								
キャリア教育	<input type="checkbox"/>								
歯科医学・歯科医療英語に特化した英語教育	<input type="checkbox"/>								
英語による歯学・医学 専門教育 (基礎・臨床講義、演習・実習等)	<input type="checkbox"/>								
国家試験対策教育	<input type="checkbox"/>								
研究倫理教育	<input type="checkbox"/>								
研究入門科目 (研究室配属等)	<input type="checkbox"/>								
<方略>									
	1	2	3	4	5				
統合型カリキュラム	<input type="checkbox"/>								
選択式カリキュラム (選択科目等)	<input type="checkbox"/>								
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/>								
シミュレーション教育	<input type="checkbox"/>								
学修管理システムを用いた遠隔授業	<input type="checkbox"/>								
DDS-PhDコース (大学院教育の早期開始)	<input type="checkbox"/>								

設問4 臨床実習導入科目（シミュレーション教育など）への影響

4-A. 現在実施している科目について	
1) 臨床実習導入科目を開講していますか	
<input type="checkbox"/>	①開講している
<input type="checkbox"/>	②開講していない
2) 1) で「開講している」と回答した場合、科目名およびその教育内容はどのようなものですか	
3) 開講学年および時期は	
4) 平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、具体的な教育方法や教育内容に変化がありましたか	
<input type="checkbox"/>	①あった 具体的な変化の内容：
<input type="checkbox"/>	なかった
4-B. 「医療面接」教育における模擬患者（Simulated Patient：以下SP）の活用状況	
1) 「医療面接」の学習に教員や学生以外のSPが参加していますか	
<input type="checkbox"/>	①参加している
<input type="checkbox"/>	②参加していない
2) SPはどのように確保していますか	
<input type="checkbox"/>	①学内養成
<input type="checkbox"/>	②外部委託
<input type="checkbox"/>	③その他 具体的に：
4-C. 「医療面接」教育以外におけるSPの活用状況	
1) 「医療面接」教育以外で教員や学生以外のSPが参加していますか	
<input type="checkbox"/>	①参加している 具体的な教育内容：
<input type="checkbox"/>	②参加していない

設問5 診療参加型臨床実習への影響

* 「診療参加型臨床実習」とは：歯科医師として必要な基本的臨床能力を習得するため、患者の同意を得て、指導歯科医のもとで実際の歯科医療に携わり歯科医行為を行う臨床実習

5-A. 診療参加型臨床実習の導入状況は	
<input type="checkbox"/>	①全面的に導入
<input type="checkbox"/>	②部分的に導入
<input type="checkbox"/>	③導入していない
5-B. 診療参加型臨床実習の対象学年および時期は	
	(年生 月 ～ 年生 月)
5-C. 平成28年度改訂版コア・カリに記載されている「臨床実習の内容と分類」の活用状況について	
<input type="checkbox"/>	①全面的に活用
<input type="checkbox"/>	②部分的に活用
<input type="checkbox"/>	③活用していない
	理由：
5-D. 「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン －歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）準拠－（案）」の活用状況について	
<input type="checkbox"/>	①全面的に活用
<input type="checkbox"/>	②部分的に活用
<input type="checkbox"/>	③活用していない
	理由：
5-E. 以下の内容の教育を診療参加型臨床実習内で行っていますか	
1) 医療安全	
<input type="checkbox"/>	①十分行っている（独立したコースやプログラムで教育している、など）
<input type="checkbox"/>	②行っている（実習内で時間を割いて教育している、など）
<input type="checkbox"/>	③行っているが十分とは言えない
<input type="checkbox"/>	④行っていない
2) 感染対策	
<input type="checkbox"/>	①十分行っている（独立したコースやプログラムで教育している、など）
<input type="checkbox"/>	②行っている（実習内で時間を割いて教育している、など）
<input type="checkbox"/>	③行っているが十分とは言えない
<input type="checkbox"/>	④行っていない
3) プロフェッショナリズム	
<input type="checkbox"/>	①十分行っている（独立したコースやプログラムで教育している、など）
<input type="checkbox"/>	②行っている（実習内で時間を割いて教育している、など）
<input type="checkbox"/>	③行っているが十分とは言えない
<input type="checkbox"/>	④行っていない
5-F. 診療参加型臨床実習を行うにあたり、実習指導教員となるための資格はありますか	
<input type="checkbox"/>	①ある
	具体的な資格は：
<input type="checkbox"/>	②ない
5-G. 診療参加型臨床実習の指導教員に対してFD等を行っていますか	
<input type="checkbox"/>	①行っている
	具体的な内容：
<input type="checkbox"/>	②行っていない
5-H. 「働き方改革」における教員の勤務時間の制約が診療参加型臨床実習での実施に影響を及ぼしていますか	
<input type="checkbox"/>	①強く及ぼしている
<input type="checkbox"/>	②やや及ぼしている
<input type="checkbox"/>	③及ぼしていない

5-I. コロナ禍になる以前において、診療参加型臨床実習実施上で貴学で抱えている問題点はどれですか（複数回答可）	
<input type="checkbox"/>	①患者数（診療ケース数）の問題
<input type="checkbox"/>	②ハード面（設備、器具・器材等）や教育環境の問題
<input type="checkbox"/>	③指導者（質および量）の問題
<input type="checkbox"/>	④指導体制（全体の教育計画の有無など）の問題
<input type="checkbox"/>	⑤その他
	具体的な内容：

設問6 学生の国際交流への影響

6-A. 学生の国際交流の機会	
1) 貴学では学生の国際交流を行っていますか	
<input type="checkbox"/>	①行っている
<input type="checkbox"/>	②行っていない
2) 1) で「行っている」と回答した場合、具体的にはどのような内容ですか	
<input type="checkbox"/>	①学生の海外への派遣
<input type="checkbox"/>	②海外の学生の受け入れ
<input type="checkbox"/>	③その他
	具体的な内容：
3) 1) で「行っている」と回答した場合、平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、どのような変化がありましたか	
6-B. 学生の海外での学修	
6-A 2) で「学生の海外への派遣」と回答した場合、	
1) 学生の海外での学修の機会は（複数回答可）	
<input type="checkbox"/>	①基礎・臨床医学で参加する機会がある
<input type="checkbox"/>	②臨床実習で参加する機会がある
<input type="checkbox"/>	③研究実習で参加する機会がある
2) そのプログラム名は	
3) その対象学年と訪問期間は	
4) その担当分野または担当組織は	

設問7 学生の学修評価への影響

7-A. 評価法全般	
	平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、評価方法全般にどのような変化がありましたか？
<input type="checkbox"/>	①新規の評価方法を追加した
<input type="checkbox"/>	②従来の方法を修正した
<input type="checkbox"/>	③変化はない
<input type="checkbox"/>	④その他
	具体的に：
7-B. 成績の記録法は（複数回答可）	
<input type="checkbox"/>	①点数制
<input type="checkbox"/>	②合否制
<input type="checkbox"/>	③複数段階制（優・良・可・不可、A・B・C・Dなど）
<input type="checkbox"/>	④GPA
<input type="checkbox"/>	⑤その他
	具体的に：
7-C. 共用試験CBTの取扱い	
	平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、共用試験CBTの進級判定等における取扱いに変化がありましたか
<input type="checkbox"/>	①変化があった
	具体的に：
<input type="checkbox"/>	②変化はない
<input type="checkbox"/>	③その他
	具体的に：
7-D. 共用試験OSCEの取扱い	
	平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、共用試験OSCEの進級判定等における取扱いに変化がありましたか
<input type="checkbox"/>	①変化があった
	具体的に：
<input type="checkbox"/>	②変化はない
<input type="checkbox"/>	③その他
	具体的に：
7-E. 臨床実習終了時の臨床能力評価	
	平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、臨床実習終了時の能力評価の進級判定等における取扱いに変化がありましたか
<input type="checkbox"/>	①変化があった
	具体的に：
<input type="checkbox"/>	②変化はない
<input type="checkbox"/>	③その他
	具体的に：
7-F. 卒業判定時の学力評価	
	平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、卒業判定のための学力評価（知識）の取扱いに変化がありましたか
<input type="checkbox"/>	①変化があった
	具体的に：
<input type="checkbox"/>	②変化はない
<input type="checkbox"/>	③その他
	具体的に：

設問8 授業評価方法等への影響

8-A. 学生による授業評価

平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、学生による授業評価方法に変化がありましたか

①変化があった

具体的に：

②変化はない

③その他

具体的に：

④もともと実施していない

8-B. 同僚による授業評価

平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、同僚による授業評価方法に変化がありましたか

①変化があった

具体的に：

②変化はない

③その他

具体的に：

④もともと実施していない

8-C. 歯科大学・歯学部による科目評価（プログラム評価）

平成28年度改訂版コア・カリが導入されたことによって、歯科大学・歯学部としての科目評価（プログラム評価）方法に変化がありましたか

①変化があった

具体的に：

②変化はない

③その他

具体的に：

④もともと実施していない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2. 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う令和2年度の講義等の実施状況調査表

新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う 令和2年度の講義等の実施状況調査	
大学名	
ご担当者名（お問い合わせ先担当者）	
連絡先電話番号	
連絡先E-mail	
<p>本調査の目的</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、大学教育にも大きな影響を与えました。多くの大学では対面授業や実習に支障をきたし、特に医療系大学においては基礎実習や病院実習の実施が困難になることで、カリキュラムの実施上大きな問題が生じているものと思います。医療系の人材輩出は国家にとって極めて重要な事項であり、新型コロナウイルス感染症蔓延下における各大学での講義・実習等の実施状況を把握することは、新たな生活様式下における歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂、特に方略を検討する上で重要な情報であることから、歯科大学・大学歯学部における講義等の実施状況についてアンケート調査へのご協力をお願いいたします。</p> <p>本調査結果の利用範囲</p> <p>本調査結果は新たな歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂の参考資料として使用いたします。他の目的での利用はいたしません。</p> <p>アンケートは以下の構成となっております。なお、<u>教養系科目については回答の範囲外とさせていただきます。</u></p> <p>I 講義</p> <p>II 基礎系科目の実習・実験</p> <p>III 人体解剖実習</p> <p>IV 臨床基礎実習（シミュレーション実習）</p> <p>V 臨床実習（診療参加型臨床実習以外）</p> <p>VI 診療参加型臨床実習</p> <p>VII 感染症教育（感染症対策を含む）について</p>	

I 講義

1 実施方法

講義の実施方法について、対面、双方向型オンラインおよび一方向型オンラインの実施比率を期間毎にご記入ください。
 学年・科目によって異なる場合、おおよその平均的な実施率をご記入ください。

	2020年										2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 (予定)	3月 (予定)	
対面													
双方向型オンライン													
一方向型オンライン													
自宅での課題学修のみ													
休講													
合計	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

*各期間の合計が100%になるように記入してください。

*講義のない月は、“-”をご記入ください。

2 進行状況

講義の全体的な進行状況について、1つ選択して下さい。②の場合、月を記入してください。
 科目個別の進捗については、「3 解決できた課題とその対処法」および「4 未解決の課題」にご記入ください。

- ①4月開始前に予定していた当初のカリキュラムから遅延している（カリキュラムを変更して遅らせた場合を含む。）。
- ②遅延していたが、____月には4月の開始当初のカリキュラムにキャッチアップした。
 → 2-1 キャッチアップの方法 に回答してください。
- ③当初のカリキュラム通り進行している。

2-1 キャッチアップの方法

「2 進行状況」で開始当初のカリキュラムにキャッチアップしたと回答した場合、どのようにしてキャッチアップしましたか。
 当てはまるものすべてを選択して下さい。

- ①休日を授業に充てた。
- ②1日の授業数を増やした。
- ③開始時期を____か月遅らせた。 *遅らせた月数を記入してください。
- ④期間を短縮した。
- ⑤期間を変えずに順延した。
- ⑥その他
 具体的に：

3 解決できた課題とその対処法

講義の実施にあたり、解決できた課題とその対処法についてご記入ください。
 特定の科目の場合、具体的な科目名または内容を明記してください。

例)

科目名	解決できた課題	対処法（工夫したこと）
〇〇理論	習得度の確認 学生の反応（理解できているかどうか。）	Zoomを利用した双方向型オンライン講義
〇〇学	〇〇の構造については立体的な模型で説明した方がわかりやすく、オンライン授業では説明が難しい。	〇月から対面に変更。 対面の方が習得が容易な内容をピックアップし、講義の順序を対面に変更。 人数を半分に分けて実施。
	授業のフィードバックについて	授業終了後に双方向でディスカッションを実施した。
	学生からの質問について	授業終了後にメールにて質問を受け付けた。
	出欠席の管理について	Google Formsを利用して集計を行った。

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

科目名	解決できた課題	対処法（工夫したこと）
-----	---------	-------------

II 基礎系科目の実習・実験

1 実施方法

基礎系科目の実習・実験の実施方法について、対面、双方向型オンラインおよび一方向型オンラインの実施比率を期間毎にご記入ください。学年・科目によって異なる場合、おおよその平均的な実施率をご記入ください。

	2020年										2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 (予定)	3月 (予定)	
対面													
双方向型オンライン													
一方向型オンライン													
自宅での課題学修のみ													
休講													
合計	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

*各期間の合計が100%になるように記入してください。

*基礎系科目の実習・実験のない月は、“-”をご記入ください。

2 進行状況

基礎系科目の実習・実験の全体的な進行状況について、1つ選択して下さい。②の場合、月を記入してください。科目個別の進捗については、「3 解決できた課題とその対処法」および「4 未解決の課題」にご記入ください。

- ① 4月開始前に予定していた当初のカリキュラムから遅延している（カリキュラムを変更して遅らせた場合を含む。）。
- ② 遅延していたが ____月には4月の開始当初のカリキュラムにキャッチアップした。
→ 2-1 キャッチアップの方法 に回答してください。
- ③ 当初のカリキュラム通り進行している。

2-1 キャッチアップの方法

「2 進行状況」で開始当初のカリキュラムにキャッチアップしたと回答した場合、どのようにしてキャッチアップしましたか。当てはまるものすべてを選択して下さい。

- ① 休日を授業に充てた。
- ② 1日の授業数を増やした。
- ③ 開始時期を ____か月遅らせた。 *遅らせた月数を記入してください。
- ④ 期間を短縮した。
- ⑤ 期間は変えずに順延した。
- ⑥ その他
具体的に：

3 解決できた課題とその対処法

基礎系科目の実習・実験の実施にあたり、解決できた課題とその対処法についてご記入ください。特定の科目の場合、具体的な科目名または内容を明記してください。

例)

科目名	解決できた課題	対処法（工夫したこと）
〇〇実習	習得度の確認。 学生の反応。（理解できているかどうか）	Zoomを利用した双方向型オンライン講義
〇〇学	〇〇の構造については立体的な模型で説明した方がわかりやすく、オンライン授業では説明が難しい。	〇月から対面に変更。 対面の方が習得が容易な内容をピックアップし、講義の順序を対面に変更。 人数を半分に分けて実施。
	オンラインで実習方法や実験方法などの実技を理解させる	実技の動画をあらかじめ撮影して配信したり、図や写真を多用したオンライン授業を心掛けた。
	3密を避けた実施	学年をグループに分けて実施

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

科目名	解決できた課題	対処法（工夫したこと）

4 未解決の課題			
基礎系科目の実習・実験の実施にあたり、未解決の課題と解決に必要なと考えている事項についてご記入ください。 特定の科目の場合、具体的な科目名または内容を明記してください。			
例)			
科目名	未解決の課題	解決に必要な事項	
	全学生に同一条件の端末が準備できなかったため、オンライン授業で学生間に差が生じた。	全学生に端末の貸与	
〇〇実習	ビデオ教材を利用した一方向型オンライン講義を実施したものの、持ち出し可能な立体的な教材を提示することが難しく、学生の理解が届かないと思われた。	3Dによる立体動画の撮影	
	実習や実験の内容によっては動画撮影が困難で、実際に体験する必要がある。	入構可能ならば、参加人数を少なくして3密を避けながら対面で実施する	
回答) 必要に応じて行を増やしてください。			
科目名	未解決の課題	解決に必要な事項	

III 人体解剖実習

1 実施方法

人体解剖実習の実施方法について、対面、双方向型オンラインおよび一方型オンラインの実施比率を期間毎にご記入ください。

	2020年										2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 (予定)	3月 (予定)	
対面													
双方向型オンライン													
一方型オンライン													
自宅での課題学修のみ													
合計	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

*各期間の合計が100%になるように記入してください。

*実習のない月は、“-”をご記入ください。

2 進行状況

人体解剖実習の進行状況について、1つ選択して下さい。②の場合、月を記入してください。

科目個別の進捗については、「3 解決できた課題とその対処法」および「4 未解決の課題」にご記入ください。

① 4月開始前に予定していた当初のカリキュラムから遅延している（カリキュラムを変更して遅らせた場合を含む。）。

② 遅延していたが、____月には4月の開始当初のカリキュラムにキャッチアップした。

→ 2-1 キャッチアップの方法 に回答してください。

③ 当初のカリキュラム通り進行している。

2-1 キャッチアップの方法

「2 進行状況」で開始当初のカリキュラムにキャッチアップしたと回答した場合、どのようにしてキャッチアップしましたか。当てはまるものすべてを選択して下さい。

① 休日を授業に充てた。

② 1日の授業数を増やした。

③ 開始時期を____か月遅らせた。 *遅らせた月数を記入してください。

④ 期間を短縮した。

⑤ 期間は変えずに順延した。

⑥ その他

具体的に：

3 解決できた課題とその対処法

人体解剖実習の実施にあたり、解決できた課題とその対処法についてご記入ください。

特定の科目の場合、具体的な科目名または内容を明記してください。

例)

科目名	解決できた課題	対処法（工夫したこと）
〇〇実習	実習時間の短縮	説明に関しては、オンライン授業と組み合わせて実施。

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

科目名	解決できた課題	対処法（工夫したこと）

4 未解決の課題

人体解剖実習の実施にあたり、未解決の課題についてご記入ください。

例)

科目名	未解決の課題	解決に必要な事項
〇〇実習	やはり、実習中に伝えた方が良い内容があり、あたためて優先順位づけが必要。〇〇と〇〇は実習での教育が不可欠。	入構可能ならば、参加人数を少なくして対面で実施する

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

科目名	未解決の課題	解決に必要な事項

IV 臨床基礎実習（シミュレーション実習）

1 実施方法

臨床基礎実習の実施方法について、対面、双方向型オンラインおよび一方向型オンラインの実施比率を期間毎にご記入ください。学年・科目によって異なる場合、おおよその平均的な実施率をご記入ください。

	2020年										2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 (予定)	3月 (予定)	
対面													
双方向型オンライン													
一方向型オンライン													
自宅での課題学修のみ													
合計	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

*各期間の合計が100%になるように記入してください。

*実習のない月は、“-”をご記入ください。

2 進行状況

臨床基礎実習の進行状況について、1つ選択して下さい。②の場合、月を記入してください。

科目個別の進捗については、「3 解決できた課題とその対処法」および「4 未解決の課題」にご記入ください。

- ① 4月開始前に予定していた当初のカリキュラムから遅延している（カリキュラムを変更して遅らせた場合を含む。）。
- ② 遅延していたが、____月には4月の開始当初のカリキュラムにキャッチアップした。
→ 2-1 キャッチアップの方法 に回答してください。
- ③ 当初のカリキュラム通り進行している。

2-1 キャッチアップの方法

「2 進行状況」で開始当初のカリキュラムにキャッチアップしたと回答した場合、どのようにしてキャッチアップしましたか。当てはまるものすべてを選択して下さい。

- ① 休日を授業に充てた。
- ② 1日の授業数を増やした。
- ③ 開始時期を____か月遅らせた。 *遅らせた月数を記入してください。
- ④ 期間を短縮した。
- ⑤ 期間は変えずに順延した。
- ⑥ その他
具体的に：

3 解決できた課題とその対処法

臨床基礎実習の実施にあたり、解決できた課題とその対処法についてご記入ください。

例)

科目名	解決できた課題	対処法（工夫したこと）
〇〇実習	実習時間の短縮	説明に関しては、オンライン授業と組み合わせる実施。
	オンラインで術式などの実技を理解させる	実技の動画をあらかじめ撮影して配信したり、図や写真を多用したオンライン授業を心掛けた。
	3密を避けた実施	学年をグループに分けて実施

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

科目名	解決できた課題	対処法（工夫したこと）

4 未解決の課題		
臨床基礎実習の実施にあたり、未解決の課題についてご記入ください。		
例)		
科目名	未解決の課題	解決に必要な事項
〇〇実習	やはり、実習中に伝えた方が良い内容があり、あたためて優先順位づけが必要。〇〇と〇〇は実習での教育が不可欠。	グループ分けによる3密を避けた対面実習の実施
〇〇実習	ビデオ教材を利用した一方向型オンライン講義を実施したものの、持ち出し可能な立体的な教材を提示することが難しく、学生の理解が届かないと思われた。	3Dによる立体動画の撮影
回答) 必要に応じて行を増やしてください。		
科目名	未解決の課題	解決に必要な事項

V 臨床実習（診療参加型以外）

1 実施方法

診療参加型臨床実習以外の臨床実習（ポリクリなどの見学型実習やシミュレーション実習など）の実施方法について、シミュレーション、双方向型オンラインおよび一方向型オンラインの実施比率を期間毎にご記入ください。学年・科目によって異なる場合、おおよその平均的な実施率をご記入ください。その他については、具体的方法を別途ご記入ください。

	2020年										2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 (予定)	3月 (予定)	
見学型実習													
シミュレーション実習													
レポート課題													
双方向型オンライン													
一方向型オンライン													
自宅での課題学修のみ													
休 講													
合計	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

*各期間の合計が100%になるように記入してください。

*実習のない月は、“-”をご記入ください。

2 進行状況

診療参加型臨床実習以外の臨床実習の全体的な進行状況について、1つ選択して下さい。②の場合、月を記入してください。科目個別の進捗については、「3 解決できた課題とその対処法」および「4 未解決の課題」にご記入ください。

① 4月開始前に予定していた当初のカリキュラムから遅延している（カリキュラムを変更して遅らせた場合を含む。）。

② 遅延していたが、____月には4月の開始当初のカリキュラムにキャッチアップした。

→ 2-1 キャッチアップの方法 に回答してください。

③ 当初のカリキュラム通り進行している。

2-1 キャッチアップの方法

「2 進行状況」で開始当初のカリキュラムにキャッチアップしたと回答した場合、どのようにしてキャッチアップしましたか。当てはまるものすべてを選択して下さい。

① 休日を授業に充てた。

② 1日の授業数を増やした。

③ 開始時期を____か月遅らせた。 *遅らせた月数を記入してください。

④ 期間を短縮した。

⑤ 期間は変えずに順延した。

⑥ その他

具体的に：

3 解決できた課題とその対処法

臨床実習の実施にあたり、解決できた課題とその対処法についてご記入ください。歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）G 臨床実習の学修目標を添えてご記入ください。

また、モデル・コア・カリキュラムにない項目で課題とその対処法がありましたら、別にご記入ください。

例)

① コアカリにある課題

コアカリの学修目標	解決できた課題	対処法（工夫したこと）
G-1-1) 臨床診断・治療計画 ① 歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。	高頻度症例の診断、治療方針・治療計画の立案、予後の推測に関する講義をオンラインで実施することによって、コアカリの学修目標を達成することができた。	高頻度症例の治療に関する臨床動画を用いることによって、学修効果の向上を図った。
G-3) 基本的診察法 ① 医療面接を実施し、患者と良好なコミュニケーションがとれる。	患者とのコミュニケーションに必要な能力について、双方向オンラインでの授業を実施することによって、コアカリの学修目標を達成することができた。	学生を小グループに分けて、双方向オンラインシステムを利用し、模擬医療面接を実施し、評価した。

②コアカリアない課題	
解決できた課題	対処法（工夫したこと）
部屋の換気が十分にできない	ドアや窓を開放して対応した。
学生間の距離が十分に取れない	使用ユニットの間引きを行って実施した。
学生の体温や体調の確認ができない	入り口にサーモグラフィを設置し、記録・管理した

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

①コアカリアある課題

コアカリアの学修目標	解決できた課題	対処法（工夫したこと）

②コアカリアない課題

解決できた課題	対処法（工夫したこと）

4 未解決の課題

臨床実習の実施にあたり、未解決の課題についてご記入ください。歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）G
臨床実習の学修目標を添えてご記入ください。
また、モデル・コア・カリキュラムにない項目で未解決の課題がありましたら、別にご記入ください。

例)

G 臨床実習の学修目標	未解決の課題
G-3 基本的臨床技能 ⑨口腔衛生指導を実施できる。	診療参加型から見学およびシミュレーション実習に変更したものの、所期の目標に到達することができなかった。代替手段の検討を行っている。

モデル・コア・カリキュラムにない課題

未解決の課題	解決に必要な事項
パーティションの設置ができない。	次年度以降、パーティションの設置を予定
PPEが確保できない。	購入方法について検討中である。
学内関係者（教員、学生、家族）にCovid-19陽性者が見られた	次年度以降、効率的な感染防止の徹底を周知する

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

コアカリアの学修目標	未解決の課題	解決に必要な事項

モデル・コア・カリキュラムにない課題	
未解決の課題	解決に必要な事項

VI 診療参加型臨床実習

1 実施方法

診療参加型臨床実習の実施方法について、診療参加型、シミュレーション、双方向型オンラインおよび一方向型オンラインの実施比率を期間毎にご記入ください。学年・科目によって異なる場合、おおよその平均的な実施率をご記入ください。その他については、具体的方法を別途ご記入ください。

	2020年										2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 (予定)	3月 (予定)	
診療参加型													
見学型実習													
シミュレーション実習													
レポート課題													
双方向型オンライン													
一方向型オンライン													
自宅での課題学修のみ													
休 講													
合計	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

*各期間の合計が100%になるように記入してください。

*実習のない月は、“-”をご記入ください。

2 進行状況

診療参加型臨床実習の全体的な進行状況について、1つ選択して下さい。②の場合、月を記入してください。

科目個別の進捗については、「3 解決できた課題とその対処法」および「4 未解決の課題」にご記入ください。

- ① 4月開始前に予定していた当初のカリキュラムから遅延している（カリキュラムを変更して遅らせた場合を含む。）。
- ② 遅延していたが ____月には4月の開始当初のカリキュラムにキャッチアップした。
→ 2-1 キャッチアップの方法 に回答してください。
- ③ 当初のカリキュラム通り進行している。

2-1 キャッチアップの方法

「2 進行状況」で開始当初のカリキュラムにキャッチアップしたと回答した場合、どのようにしてキャッチアップしましたか。当てはまるものすべてを選択して下さい。

- ① 休日を授業に充てた。
- ② 1日の授業数を増やした。
- ③ 開始時期を ____か月遅らせた。 *遅らせた月数を記入してください。
- ④ 期間を短縮した。
- ⑤ 期間は変えずに順延した。
- ⑥ その他
具体的に：

3 解決できた課題とその対処法

臨床実習の実施にあたり、解決できた課題とその対処法についてご記入ください。歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）G 臨床実習の学修目標を添えてご記入ください。また、モデル・コア・カリキュラムにない項目で課題とその対処法がありましたら、別にご記入ください。

例)

① コアカリにある課題

コアカリの学修目標	解決できた課題	対処法（工夫したこと）
G-1-1) 臨床診断・治療計画 ① 歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。	診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測に関するレクチャー	診療参加型から見学に変更
G-2 基本的診察法 ② 全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。	全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察のシミュレーション	診療参加型からシミュレーション実習に変更

②コアカリアない課題	
解決できた課題	対処法（工夫したこと）
部屋の換気が十分にできない	ドアや窓を開放して対応した。
学生間の距離が十分に取れない	使用ユニットの間引きを行って実施した。
学生の体温や体調の確認ができない	入り口にサーモグラフィを設置し、記録・管理した

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

①コアカリアある課題

コアカリアの学修目標	解決できた課題	対処法（工夫したこと）

②コアカリアない課題

解決できた課題	対処法（工夫したこと）

4 未解決の課題

臨床実習の実施にあたり、未解決の課題についてご記入ください。歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）G
臨床実習の学修目標を添えてご記入ください。
また、モデル・コア・カリキュラムにない項目で未解決の課題がありましたら、別にご記入ください。

例)

G 臨床実習の学修目標	未解決の課題
G-3 基本的臨床技能 ⑨口腔衛生指導を実施できる。	診療参加型から見学およびシミュレーション実習に変更したものの、所期の目標に到達することができなかった。代替手段の検討を行っている。

モデル・コア・カリキュラムにない課題

未解決の課題	解決に必要な事項
パーティションの設置ができない。	次年度以降、パーティションの設置を予定
PPEが確保できない。	購入方法について検討中である。
学内関係者（教員、学生、家族）にCovid-19陽性者が見られた	次年度以降、効率的な感染防止の徹底を周知する

回答) 必要に応じて行を増やしてください。

コアカリアの学修目標	未解決の課題	解決に必要な事項

モデル・コア・カリキュラムにない課題	
未解決の課題	解決に必要な事項

VII 感染症教育（感染症対策を含む）について

1 拡充の有無について

4月開始前に予定していた当初のカリキュラムに加え、コロナ禍に影響を受けて感染症教育（感染症対策を含む）に関する講義・実習の内容や時間数の拡充を行いましたか？

- はい
 いいえ

2 教育内容について

感染症教育（感染症対策を含む）は、どのような内容をどのような方法で実施しましたか。具体的な学年、科目名、内容、方法及び時間数をご記入ください。複数の科目で実施している場合、表を増やしてご記入ください。

1の間で、「はい」と回答した場合は、**R1以前と今年度の欄の両方**を
「いいえ」と回答した場合は、**R1以前の欄のみ**をご記入ください。

①講義

	R1年度以前	今年度
学年		
科目名		
内容		
方法		
時間数		

	R1年度以前	今年度
学年		
科目名		
内容		
方法		
時間数		

	R1年度以前	今年度
学年		
科目名		
内容		
方法		
時間数		

②実習

	R1年度以前	今年度
学年		
科目名		
内容		
方法		
時間数		

	R1年度以前	今年度
学年		
科目名		
内容		
方法		
時間数		

3 将来充実させるべき感染症教育について

① コロナ禍に影響を受けて、感染症教育の観点で来年度以降既に拡充する予定とされている内容があれば教えて下さい。

来年度拡充を予定している → 以下表を記載

来年度拡充の予定はない → ②の質問へ

種別	充実させるべき事項			具体的な内容
講義	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数	
実習	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数	例) ガウンの着脱、標準予防策、感染予防、検査方法
その他	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数	

② 今後感染症教育の観点で拡充すべき内容は、どのようなことだと思われますか。

種別	充実させるべき事項			具体的な内容
講義	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数	
実習	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数	例) ガウンの着脱、標準予防策、感染予防、検査方法
その他	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数	

3 将来充実させるべき感染症教育について

今後、実際に感染症教育を拡充する場合、どのような課題があるでしょうか。

具体的に考えられる課題がありましたらご記入ください。

種別	課題			具体的な内容	その理由
講義	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数		
実習	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数		
その他	<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 方法	<input type="checkbox"/> 時間数		

特になし

3. 令和2年度歯科医師臨床研修指導者調査表

令和2年度歯科医師臨床指導者調査票

令和2年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究チーム

指導歯科医師へのアンケート

歯学教育改善に向けてのアンケート調査へのお願い

本調査は、文部科学省委託事業「令和2年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究チーム」が、今後の歯学教育の改善のために実施する調査です。

歯科医師臨床研修施設の指導歯科医師に対して、平成22年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した大学教育を受けた研修歯科医の4月入職時の知識、技能、態度の修得状況についてご意見をうかがうものです。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い致します。

なお、収集した情報につきましては、個人に関する情報は調査以外の目的には使用されません。

平成22年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムの主な変更点

① 歯科医師として必要な臨床能力の確保

診療参加型臨床実習の充実

② 口腔と全身への関わり

高齢者や全身疾患を有する患者等への対応、予防歯科、社会歯科学など、医学・医療との連携の明示

高齢者における口腔ケア処置、口腔機能管理向上による介護予防、要介護者の歯科治療の注意点

歯科医師に必要な医学的知識

③ 歯科医師として普遍的に求められる資質の明示

医療安全（患者および医療従事者の安全性確保）

患者中心の医療（多職種協働における歯科医師の役割）

④ 大規模災害における歯科医師の役割

⑤ リサーチマインド、生涯学習の態度の獲得

(1) 回答者

- ・歯科大学・歯学部の附属病院・附属診療所の場合：臨床研修に7年以上携わっている指導歯科医 3名
- ・上記以外の研修施設の場合：臨床研修に7年以上携わっている指導歯科医 1名

(2) 回答期限

令和3年2月19日（金）必着でご返送をお願いします。

(3) 提出方法

記入した本調査票を各研修施設で取りまとめの上、添付の伝票またはご都合のよい着払い方法にてご提出ください。

返送先：〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 駒込 TSビル

（一財）口腔保健協会内 日本歯科医学教育学会事務局あて

(4) 問い合わせについて

本調査票への記入、提出方法等でご不明な点がございましたら、下記まで FAX またはメールでお問い合わせください。

問い合わせ先：一般社団法人 日本歯科医学教育学会・事務局

FAX: 03-3947-8341

E-Mail: gakkai35@kokuhoken.or.jp（件名を【指導歯科医師アンケートに係る問合せ】としてください）

アンケート調査

問1 貴施設は以下のどれにあたりますか。

下記から最もふさわしいものを1つ選んで右の回答記入欄に記入してください。

回答記入欄

1. 歯科大学・歯学部の附属病院・附属診療所
2. 医科大学・医学部の附属病院
3. 大学病院以外の病院（単独型臨床研修施設）
4. 大学病院以外の病院（管理型臨床研修施設）
5. 大学病院以外の病院（協力型臨床研修施設）
6. 歯科診療所（単独型臨床研修施設）
7. 歯科診療所（管理型臨床研修施設）
8. 歯科診療所（協力型臨床研修施設）
9. 歯科診療所（連携型臨床研修施設）

問2 アンケート回答者であるあなたに関する以下の質問にお答えください。

回答記入欄

下記から選んで右の回答記入欄に記入してください。

(1)年齢は以下のどれにあたりますか。

1. 30 歳代
2. 40 歳代
3. 50 歳代
4. 60 歳代
5. 70 歳以上

(2)指導経験年数は

回答記入欄

()年

具体的な年数を右の回答記入欄に記入してください。

問3 貴施設の研修歯科医の受け入れ状況について

年度別の受入れの有無について下表の欄に○を記入してください。

	(西暦)	受入研修歯科医
平成23年度	(2011年度)	有 ・ 無
平成24年度	(2012年度)	有 ・ 無
平成25年度	(2013年度)	有 ・ 無
平成26年度	(2014年度)	有 ・ 無
平成27年度	(2015年度)	有 ・ 無
平成28年度	(2016年度)	有 ・ 無
平成29年度	(2017年度)	有 ・ 無
平成30年度	(2018年度)	有 ・ 無
平成31年／令和元年度	(2019年度)	有 ・ 無
令和2年度	(2020年度)	有 ・ 無

問4 あなたは、歯学教育モデル・コア・カリキュラムを知っていますか。

下記から選んで右の回答記入欄に記入してください。

1. よく知っている
2. ある程度知っている
3. 聞いたことはあるが、内容はよく知らない
4. 聞いたことがない

回答記入欄

問5 あなたは、歯学教育モデル・コア・カリキュラムをどのように入手していますか。

下記から選んで右の回答記入欄に記入してください。

1. 所属先で配布されている
2. 管理型臨床研修施設から入手している
3. インターネットで入手している
4. 入手したことはない

回答記入欄

問6 平成29年(2017年)度以前に入職した研修歯科医と、平成30年(2018年)度以降に入職した研修歯科医の以下の9項目に関する「**研修開始時点での能力**」を以下の評価クライテリアを基準に5段階で評価して、下記の表の回答欄の当てはまる数値に○をつけて下さい。

※厳密に平成30年度の前後ではなく、その時期あたりを対象とした趨勢の変化をお答えください。

【評価クライテリア】

1. 大いにそう思う
2. そう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

	平成29年 (2017年) 以前入職者の評価 回答欄					平成30年 (2018年) 以降入職者の評価 回答欄				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
① 歯科医師(専門職)として患者に対する責任感 ※を身につけている。 ※法的義務を理解した上で、患者の多様な背景を理解しながらその価値観に適した医療を説明するなどの態度など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
② 患者中心の視点を持ち、コミュニケーション能力 ※を身につけている。 ※患者や家族と対話を通して信頼関係を結び、診療について説明でき、加えて指導歯科医や他の医療スタッフと報告・連絡・相談などを通して信頼関係を結ぶなど	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③ 診療および医科歯科連携に必要な医学的知識 ※を身につけている。 ※代表的な医科疾患の概要と症候に関する知識、主要な身体診察に関する知識、小児や妊婦に対する基本的な知識など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④ 基本的な治療 ※を行うことができる。 ※コア・カリキュラムの臨床実習内容で水準1に分類される比較的難易度が低い治療、その多くは臨床研修では「高頻度治療」に含まれる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑤ 高齢者、要介護者に対応する知識 ※を身につけている。 ※老化に伴う身体的構造と機能の変化を理解し、心理的特徴にも配慮して安全に歯科治療を行う	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥ 科学的・論理的思考 ※を身につけている。 ※病態や医療情報などの分析から新たな課題や仮説を見つけ、基礎医学や生命科学との関連を探りながら解決しようとする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑦ 課題探求・問題解決能力 ※を身につけている。 ※課題(問題点)を自ら発見、課題解決の具体策を見出し、問題を解決する。結果を自己評価できればさらに良い。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑧ 標準予防策(standard precaution) ※を実践できる。 ※患者及び医療者が感染に遭遇する危険を予防する改善策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑨ 医療安全対策 ※を実践できる。 ※安全な医療を行うための基本的予防策の理解や、組織的なリスク管理のためのインシデント・アクシデント報告の重要性の理解など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問7 平成30年度以降の研修歯科医について、それ以前の研修歯科医に比べて優れている点、物足りない点など、お気づきのことがありましたらお書き下さい。(自由記載)

(1)優れている点

--

(2)物足りない点

--

(3)その他のコメント

--

問8 今後の卒前(歯学部)教育において、強化した方がいいと思われる項目を以下から選んでください。(記入欄に3つまで○を入れてください)

※は当該項目の発展例として臨床研修、生涯学修における内容なども含みます。問8、問9は平成22年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムに拘らずにお答えください。

	記入欄
①診断能力 ※病歴聴取、身体診察、検査等によって患者の現症を的確に捉えるなど	
②臨床推論 ※医療現場で必要とされる診断及び治療等に関する思考力(臨床推論)など	
③治療計画立案能力 ※口腔内の長期に亘る健康維持のために、一口腔単位で治療の優先性や順序性を整えるなど	
④基本的臨床技能 ※基本的臨床手技を修得することで高頻度治療における歯科診療を実践するなど	
⑤Evidence based medicine の実践 ※高度化する歯科医学において最新かつ強力な根拠を検索し、これを基盤にした医療を選択、推進するなど	
⑥多職種連携・チーム医療 ※地域医療の核となる保健、医療、福祉、介護に関わる全ての人の役割を理解し連携できるなど	
⑦感染症対策 ※医療従事者の健康のために感染経路を正しく理解し、標準予防策、薬剤耐性などを含めて感染症を正しく管理するなど	
⑧全身管理 ※全身状態を正しく身体診察、評価することで、麻酔処置を含めて安全に歯科医療を実施できるなど	
⑨基礎歯科医学の研究手法 ※疾患や現象からの情報を理解、解決する目的で科学的研究を検討するなど	
⑩診療録の記載 ※的確な診察と検査から得た所見や診断を適切に診療録に残す。電子カルテ上での SOAP による経過記録記載によって受療経験等を共有化し、患者の生涯に亘る健康維持に寄与するなど	
⑪法的知識 ※歯科医師の法的義務と責任を理解した上で医療上の倫理的問題に柔軟に対応するなど	
⑫在宅医療・訪問歯科診療 ※地域包括ケアシステムを理解し、他職種連携により地域医療に貢献するなど	
⑬リスクマネジメント(危機管理) ※患者及び医療従事者の健康と安全のために、遭遇する危険への対応し、予防策を模索するなど	
⑭歯科医学・医療の国際化 ※英語をはじめとした多言語を活用しての医療提供、世界の保健・医療・研究の情報収集や国際社会への情報発信や貢献など。	

問9 今後の歯科医療の変化を考慮して卒前(歯学部)教育に導入または強化した方が良い(医療専門職としての倫理感・基本的態度や生涯学習などの態度項目を含めた)学修項目や卒前(歯学部)教育へのご要望がありましたら自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

4. 令和2年度歯科医師臨床研修修了者調査票

令和2年度歯科医師臨床研修修了者調査票

令和2年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究チーム

研修歯科医師へのアンケート

歯学教育改善に向けてのアンケート調査へのお願い

本調査は、文部科学省委託事業「令和2年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究チーム」が、今後の歯学教育の改善のために実施する調査です。

歯科医師臨床研修を修了する歯科医師に対して、卒業直後の知識、技能、態度の修得状況および出身大学での卒業前教育内容を振り返っていただき、ご意見をうかがうものです。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い致します。

なお、収集した情報につきましては、個人に関する情報は調査以外の目的には使用されません。

(1)回答者

- ・令和3年3月末までに歯科医師臨床研修を修了するすべての歯科医師を対象としています。
- ・令和3年3月末までに歯科医師臨床研修を修了する方のみ、本調査表に回答を記入してください。

(2)回答期限

令和3年2月19日(金)必着でご返送をお願いします。

(3)提出方法

記入した本調査票を各研修施設で取りまとめの上、添付の伝票またはご都合のよい着払い方法にてご提出ください。

返送先:

〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 駒込 TSビル
(一財)口腔保健協会内 日本歯科医学教育学会事務局あて

(4)問い合わせについて

本調査票への記入、提出方法等でご不明な点がございましたら、下記までFAX またはメールでお問い合わせください。

問い合わせ先:

一般社団法人 日本歯科医学教育学会・事務局

FAX:03-3947-8341

E-Mail: gakkai35@kokuhoken.or.jp

(件名を【研修歯科医師アンケートに係る問合せ】としてください)

アンケート調査

問1 あなたが卒業した大学(歯学部)はどこですか。

回答記入欄

下記から選んで右の回答記入欄に記入してください。

- 01.北海道大学 02.北海道医療大学 03.岩手医科大学 04.東北大学 05.奥羽大学 06.明海大学
07.東京歯科大学 08.日本大学 09.日本大学松戸歯学部 10.日本歯科大学 11.東京医科歯科大学
12.昭和大学 13.鶴見大学 14.神奈川歯科大学 15.新潟大学 16.松本歯科大学 17.日本歯科大学新潟
18.朝日大学 19.愛知学院大学 20.大阪大学 21.大阪歯科大学 22.岡山大学 23.広島大学
24.徳島大学 25.九州歯科大学 26.九州大学 27.福岡歯科大学 28.長崎大学 29.鹿児島大学
30.認定および予備試験

問2 あなたが歯学部を卒業したのはいつですか

回答記入欄

下記から選んで右の回答記入欄に記入してください。

1. 平成29(2017)年3月以前
2. 平成30(2018)年3月以降

問3 あなたが卒業した大学(歯学部)では、診療参加型臨床実習※は充実していましたか。

回答記入欄

下記から選んで右の回答記入欄に記入してください。

1. 充実していた
2. やや充実していた。
3. どちらともいえない。
4. あまり充実していなかった。
5. 全く充実していなかった。

※診療参加型臨床実習とは

「患者を全人的・全身的に捉える態度を養うとともに、
歯科医師として必要な基本的臨床能力を習得するため、
患者の同意を得て、指導歯科医のもとで実際の歯科医療
に携わり歯科医行為を行う臨床実習」

《出典》歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会
議

問4 あなたの「臨床研修開始時点での能力」に関する9項目について、以下の評価クライテリアを基準に5段階で自己評価をしてください。

下記の表の回答欄の当てはまる数値に○をつけて下さい。

【評価クライテリア】

1. 大いにそう思う
2. そう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. 全くそう思わない

	自己評価 回答欄				
	1	2	3	4	5
① 歯科医師(専門職)として患者に対する責任感 [*] を身につけている。 ※法的義務を理解した上で、患者の多様な背景を理解しながらその価値観に適した医療を説明するなどの態度	1	2	3	4	5
② 患者中心の視点を持ち、コミュニケーション能力 [*] を身につけている。 ※患者や家族と対話を通して信頼関係を結び、診療について説明でき、加えて指導歯科医や他の医療スタッフと報告・連絡・相談などを通して信頼関係を結ぶなど	1	2	3	4	5
③ 診療および医科歯科連携に必要な医学的知識 [*] を身につけている。 ※代表的な医科疾患の概要と症候に関する知識、主要な身体診察に関する知識、小児や妊婦に対する基本的な知識など	1	2	3	4	5
④ 基本的な治療 [*] を行うことができる。 ※コア・カリキュラムの臨床実習内容で水準1に分類される比較的難易度が低い治療、その多くは臨床研修では「高頻度治療」に含まれる	1	2	3	4	5
⑤ 高齢者、要介護者に対応する知識 [*] を身につけている。 ※老化に伴う身体的構造と機能の変化を理解し、心理的特徴にも配慮して安全に歯科治療を行う	1	2	3	4	5
⑥ 科学的・論理的思考 [*] を身につけている。 ※病態や医療情報などの分析から新たな課題や仮説を見つけ、基礎医学や生命科学との関連を探りながら解決しようとする	1	2	3	4	5
⑦ 課題探求・問題解決能力 [*] を身につけている。 ※課題(問題点)を自ら発見、課題解決の具体策を見出し、問題を解決する。結果を自己評価できればさらに良い。	1	2	3	4	5
⑧ 標準予防策(standard precaution) [*] を実践できる。 ※患者及び医療者が感染に遭遇する危険を予防する改善策	1	2	3	4	5
⑨ 医療安全対策 [*] を実践できる。 ※安全な医療を行うための基本的予防策の理解や、組織的なリスク管理のためのインシデント・アクシデント報告の重要性の理解など	1	2	3	4	5

問5 自分の修了した卒前(歯学部)教育について、良かった点、物足りない点など、お気づきのことがありましたらお書き下さい。(自由記載)

(1) 良かった点

(2) 物足りない点

(3) その他のコメント

問6～問8は次のページの表内に回答してください。

問6 大学(歯学部)卒業時を振り返って、以下の28項目についてあなたの研修開始時点での能力を以下の評価クライテリアを基準に5段階で評価してください。

次ページの表の回答欄の当てはまる数値に○をつけて下さい。

【評価クライテリア】

1. 臨床においてその技能、態度を実践できた。あるいは応用可能な知識として十分に修得していた。
2. 臨床術式(方法や手順など)の要点を熟知し、部分的に診療に参加できた。あるいは知識として十分に学修していた。
3. 臨床において上級医または同僚歯科医の診療介助ができた。あるいは知識として概略を知っていた。
4. 臨床において経験や学修する機会があったが、身につけていなかった。あるいは知識としては不十分であった。
5. 臨床において経験や学修する機会はなかった。あるいは知識として学ぶ機会がなかった。

問7 あなたの修得程度とは関係なく、以下の項目に関する教育が出身大学のカリキュラムにおいてどの程度準備されていたと感じますか。

以下の評価クライテリアを基準に5段階で評価してください。

次ページの表の回答欄の当てはまる数値に○をつけて下さい。

【評価クライテリア】

1. 臨床においてその技能、態度を繰り返し体験できる実習、あるいは知識として十分に学修できるプログラムがあった。
2. 臨床においてその技能、態度を体験できる実習、あるいは知識として学修するプログラムがあった。
3. 臨床において介助(見学)できる機会がある実習、あるいは関連した講義プログラムがあった。
4. 臨床において介助(見学)できる学生とそうでない学生がいた。あるいは学修できる講義プログラムは不十分であった。
5. 臨床において経験や学修する機会はなく、学修できる講義プログラムはなかった。

問8 (あなたの出身大学のカリキュラムでの準備状況とは関係なく)、あなたが約1年間の臨床研修における経験などを通じて、以下の項目に関する教育が卒前教育に準備されることの重要性をどのように感じましたか。

以下の評価クライテリアを基準に3段階で評価してください。

次ページの表の回答欄の当てはまるアルファベットに○をつけて下さい。

【評価クライテリア】

- A. 非常に重要であると感じた。
- B. どちらともいえない。
- C. あまり重要とは感じない。

	問6 回答欄					問7 回答欄					問8 回答欄		
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
①患者の情報を聴取し、診断して治療計画を立案できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
②口腔・顎顔面領域の基本的な診察を実施できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
③口内法エックス線撮影(デンタル撮影法)を実施できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
④患者の苦痛や不安感に配慮しながら、基本的な臨床手技を実践できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑤代表的な医科疾患(内科的疾患)の症候を説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑥妊娠時の管理に必要な基礎知識を説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑦周術期口腔ケアについて患者に説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑧高齢者における口腔ケア処置について説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑨口腔機能向上による介護予防について説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑩口腔機能管理(口腔機能発達不全症・口腔機能低下症)を説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑪摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑫障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑬要介護者(在宅要介護者も含む)の歯科治療時の注意点について説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑭禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑮ライフステージに応じた食育について説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑯適切に保健・医療・福祉・介護を提供するために、関連する社会制度、地域医療及び社会環境を説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑰歯科医学・医療に関連する情報を客観的、批判的に統合、整理できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑱歯科医療の発展における基礎研究、臨床研究の必要性を概説でき、学術、研究活動に関与する。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑲院内感染を含む医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
⑳薬剤等の副作用、薬害に関する情報を共有し、	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C

事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。													
㉑医療現場における危険(事故、感染等)の基本的な予防・対処・改善の方法を説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
㉒放射線検査の必要性と、放射線の人体に対する影響と防御について説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
㉓患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な信頼関係を築くことができる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
㉔医療チームの構成員として相互尊重の適切な行動を実践できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
㉕大規模災害などにおける、歯科による個人識別を用いた被害者の迅速な特定について説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
㉖災害時の歯科医療の必要性について説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
㉗小児の虐待の徴候と対応について説明できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C
㉘歯科医師としてのキャリアを継続させるための生涯学修を概説できる。	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C

問9 今後の卒前(歯学部)教育において、強化した方がいいと思われる項目を以下から選んでください。

(記入欄に3つまで○を入れてください)

※は当該項目の発展として臨床研修、生涯学修における内容なども含む

	記入欄
①診断能力 ※病歴聴取、身体診察、検査等によって患者の現症を的確に捉えるなど	
②臨床推論 ※医療現場で必要とされる診断及び治療等に関する思考力(臨床推論)など	
③治療計画立案能力 ※口腔内の長期に亘る健康維持のために、一口腔単位で治療の優先性や順序性を整えるなど	
④基本的臨床技能 ※基本的臨床手技を修得することで高頻度治療における歯科診療を実践するなど	
⑤Evidence based medicine の実践 ※高度化する歯科医学において最新かつ強力な根拠を検索し、これを基盤にした医療を選択、推進するなど	
⑥多職種連携・チーム医療 ※地域医療の核となる保健、医療、福祉、介護に関わる全ての人の役割を理解し連携できるなど	
⑦感染症対策 ※医療従事者の健康のために感染経路を正しく理解し、標準予防策、薬剤耐性などを含めて感染症を正しく管理するなど	
⑧全身管理 ※全身状態を正しく身体診察、評価することで、麻酔処置を含めて安全に歯科医療を実施できるなど	
⑨基礎歯科医学の研究手法 ※疾患や現象からの情報を理解、解決する目的で科学的研究を検討するなど	
⑩診療録の記載 ※的確な診察と検査から得た所見や診断を適切に診療録に残す。電子カルテ上での SOAP による経過記録記載によって受療経験等を共有化し、患者の生涯に亘る健康維持に寄与するなど	
⑪法的知識 ※歯科医師の法的義務と責任を理解した上で医療上の倫理的問題に柔軟に対応するなど	
⑫在宅医療・訪問歯科診療 ※地域包括ケアシステムを理解し、他職種連携により地域医療に貢献するなど	
⑬リスクマネジメント(危機管理) ※患者及び医療従事者の健康と安全のために、遭遇する危険への対応し、予防策を模索するなど	
⑭歯科医学・医療の国際化 ※英語をはじめとした多言語を活用しての医療提供、世界の保健・医療・研究の情報収集や国際社会への情報発信や貢献など	

問10 今後の歯科医療の変化を考慮して卒前(歯学部)教育に導入または、強化した方が良い(医療専門職としての倫理感・基本的態度や生涯学習などの態度項目を含めた)学修項目や卒前(歯学部)教育へのご要望がありましたら自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。